中国への農林水産物・食品の輸出に関するカントリーレポート

品目別：木材

2023年12月
中国輸出支援プラットフォーム

もくじ

■ 中国における木材市場全体の概況
- 木材の生産について
  - 中国の木材生産……P4
  - 中国のボード生産……P5
- 木材の消費について
  - 中国の木材消費……P6
  - 中国のボード消費……P7
- 木材の輸入について
  - 丸太
    - 中国の丸太輸入……P8
    - 中国の主要丸太輸入元（国および地域）……P9
    - 【参考】中国の主要針葉樹丸太輸入元（国および地域……P10
    - 輸入丸太（現地の状況）……P11
  - 製材
    - 中国の製材輸入……P13
    - 中国の製材輸入の内訳……P14
    - 輸入丸太加工後の製材（現地の状況）……P15
  - 合板
    - 中国の合板輸入……P16
- 木材の流通について
  - 中国向け木材輸出フロー……P17
  - 【参考】中国向け木材輸出関連規制……P18
  - 中国における木材流通フロー（全体像）……P19
  - 中国における木材流通チャネル……P20

■ 中国における木材市場全体の概況（続き）
- 中国における木材関連産業の主要3地域の現状……P21
  - 東部地域……P22
  - 中部地域……P23
  - 西部地域……P24

■ 中国における日本産スギ・ヒノキの流通および用途
- 中国における日本産スギおよびヒノキの流通全体像……P26
- 中国における日本産スギ
- 流通経路……P27
- 主な用途……P28
- 主な用途（イメージ）……P29
- 中国における日本産ヒノキ
- 流通経路……P30
- 主な用途……P31
- 主な用途（イメージ）……P32

■ 業界別関係者ヒアリング結果まとめ
- 輸入者……P34
- 製材加工企業……P35
- 不動産ディベロッパー……P36
- 内装業者……P37

■ 中国における日本産木材の実態（まとめ）
- 全体像……P39
- 事業環境（政治・経済）……P40
- 日本国内の課題……P41
- 流通……P42
- 日本産丸太の用途……P43
- マーケティング・戦略……P44

■ 参考資料：中国における木材輸入状況分析（2022年度「中国における木材市場関連調査」）
- 丸太：
  - マツ（HSコード：440321 / 440322）……P49
  - 他の針葉樹（スギ・ヒノキ含む）……P54
    （HSコード：440325 / 440326）
- 製材：
  - マツ（HSコード：440711）……P59
  - スギ（HSコード：440712）……P62
  - 他の針葉樹（ヒノキ含む）
    （HSコード：440719）……P65
- 単板：
  - 針葉樹（HSコード：440810）……P68

中国における木材市場全体の概況

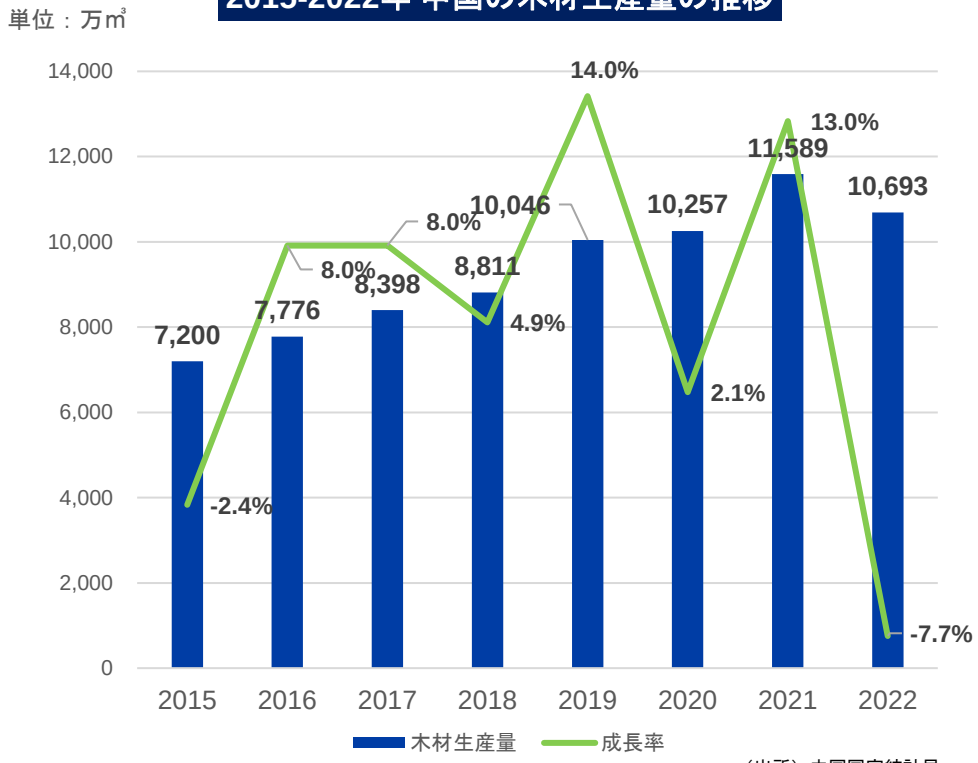
- 木材の生産について
  - 中国の木材生産
  - 中国のボード生産
- 木材の消費について
  - 中国の木材消費
  - 中国のボード消費
- 木材の輸入について
  - 丸太
    - 中国の丸太輸入
    - 中国の主要丸太輸入元（国および地域）
    - 【参考】中国の主要針葉樹丸太輸入元（国および地域
    - 輸入丸太（現地の状況）
  - 製材
    - 中国の製材輸入
    - 中国の製材輸入の内訳
    - 輸入丸太加工後の製材（現地の状況）
  - 合板
    - 中国の合板輸入
- 木材の流通について
  - 中国向け木材輸出フロー
  - 【参考】中国向け木材輸出関連規制
  - 中国における木材流通フロー（全体像）
  - 中国における木材流通チャネル
- 中国における木材関連産業の主要3地域の現状
  - 東部地域
  - 中部地域
  - 西部地域

1 木材の生産について
中国の木材生産

- 中国の木材生産量（※）：2022年の中国の木材生産量は10,693万㎥で、前年比で896万㎥、7.7%減少している。
- 中国の木材生産分布：木材生産が最も多い省は広西チワン族自治区であり、中国の総生産量の33.7%を占めている。広東省がこれに続き10.9%。雲南省が7.8%で第3位となっている。

※　「中国の木材生産量」：統計局の定義上、国営林業局、国営林場、その他国営事業単位が各種伐採方式により生産した丸太、薪材、小規格材を指す。

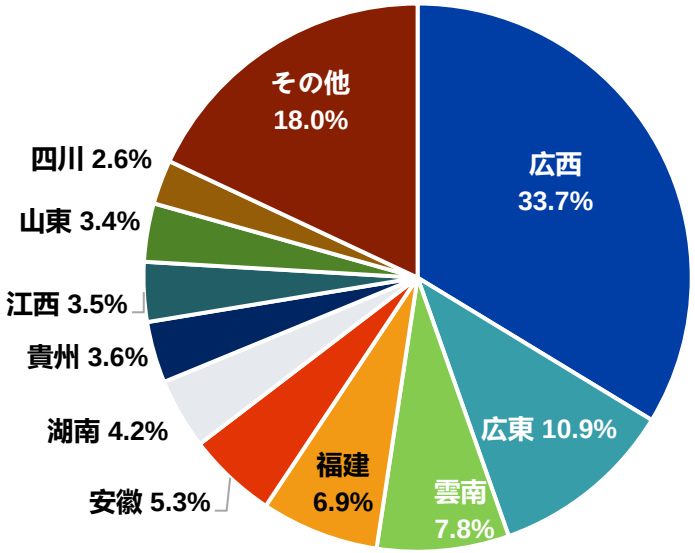
2015-2022年 中国の木材生産量の推移



（出所）中国国家統計局

※22021年のデータが修正されていたため反映済み

2021年 中国の木材生産分布



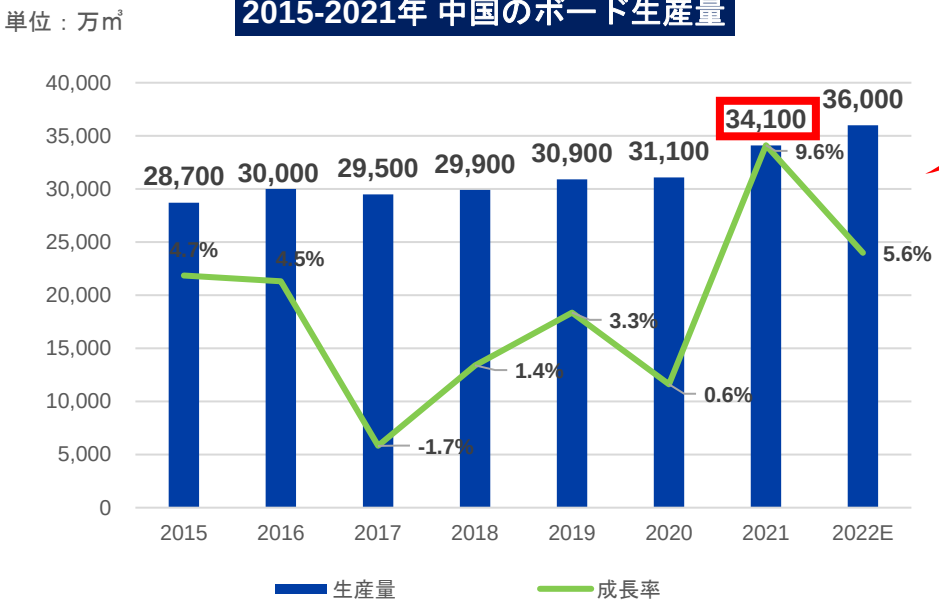
（出所）智研諮詢「2022年中国木材行業市場供需現状及進出口貿易分析」

※2021年のデータが修正されていたため反映済み

2 木材の生産について 中国のボード生産

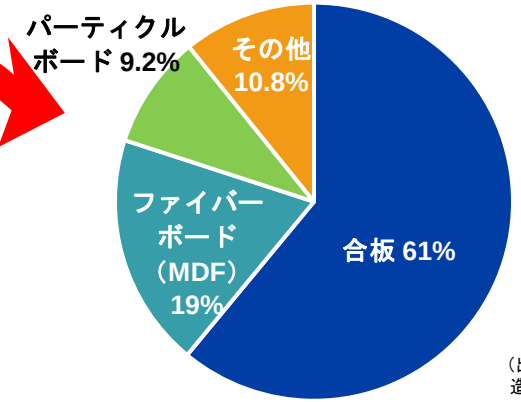
- **ボードの定義と主要原材料**：中国のボード（中国語：人造板）は、木材又は他の非木材植物（葦（アシ）、麦わら、トウモロコシの茎、ソルガムの茎、サトウキビのバガスなど）を原料とし、一定の機械加工を加えて各種単位素材に分離した後、接着剤などの添加物を塗布して（または塗布せずに）成形した板材または成形品を指す。合板、ファイバーボード（MDF）、パーティクル（チップ）ボードなどが含まれる。（前瞻産業研究院「2023年中国人造板制造行業全景図譜」）
- ボードの生産量：ボードの主要原材料は木材や非木材植物であることから、その生産量は中国の木材の生産量と輸入量の合計を上回っている。ここ数年、中国のボード生産量は3億㎥前後で推移している。
- ボードのシェア：ボードのなかで最も生産量の大きい製品カテゴリは合板で、2021年にはボード全体の61%を占めている。ファイバーボードは全体の約19%、パーティクルボードは9.2%。2021年の合板の生産量は1億9,900万㎥で、前年比0.6%の成長を記録している。
- **ボードの用途**：ボードの主な用途は、インテリア、家具、建築、床材、ドア・窓枠、包装材料など。なかでも家具やインテリアの使用量が最も多く、その他は主に建築、包装、コンテナの床板などに使われている。（業界関係者へのヒアリング）

2015-2021年 中国のボード生産量

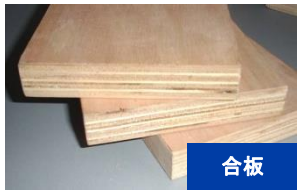


（出所）2015年～2021年の実績値は共研網「2022-2028年中国人造板行業調査与投資方向研究報告」
2022年の予測値は前瞻産業研究院「2023年中国人造板制造行業全景図譜」

2021年のボード生産シェア



（出所）共研網「2022-2028年中国人造板行業調査与投資方向研究報告」



出所：ヒアリング対象先企業提供

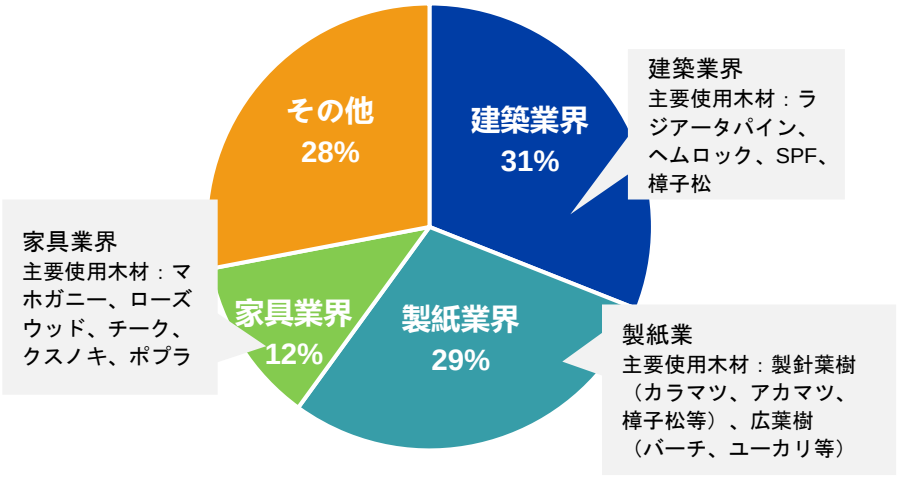
3 木材の消費について 中国の木材消費

- **木材消費量**：2015年から2021年にかけ、中国の木材消費量は緩やかな増加傾向を保った。2021年末時点の木材消費量は6億4,078万㎥。2019年から3年間の木材消費年間成長率は0.1%を下回っている。
- **木材の用途**：中国で木材が使用される主な業界は、建築、製紙、家具の3つとなっている。2021年については、うち、建築用木材はラジアータパイン、ヘムロック、SPF、樟子松が中心で、建築業界の消費量は全体の31%。製紙業では主に針葉樹（カラマツ、アカマツ、樟子松など）、広葉樹（バーチ、ユーカリなど）が使われており、消費量は29%。家具業界では主にマホガニー、ローズウッド、チーク、クスノキ、ポプラなどが使われ、消費量の12%を占めている。（業界関係者へのヒアリング）
- **木材のリサイクル状況と消費量・生産量の関係**：木材消費量は木材の生産量と輸入量の合計を大きく上回る。この理由としては、建設業界では使用済みの木材の多くがリサイクルされ、小規模なディベロッパーや個人に売却され、再利用されていることが考えられる。なお、その他の廃材も紙やバイオ燃料など幅広い用途にリサイクルされている。

2015-2021年 中国の木材消費量の推移

（出所）2015年～2019年の数値は中研普華産業研究院「2022木材市場深度調研報告」
2020年と2021年の数値は業界関係者へのヒアリング結果からの推算

2021年 中国の業界別木材消費シェア



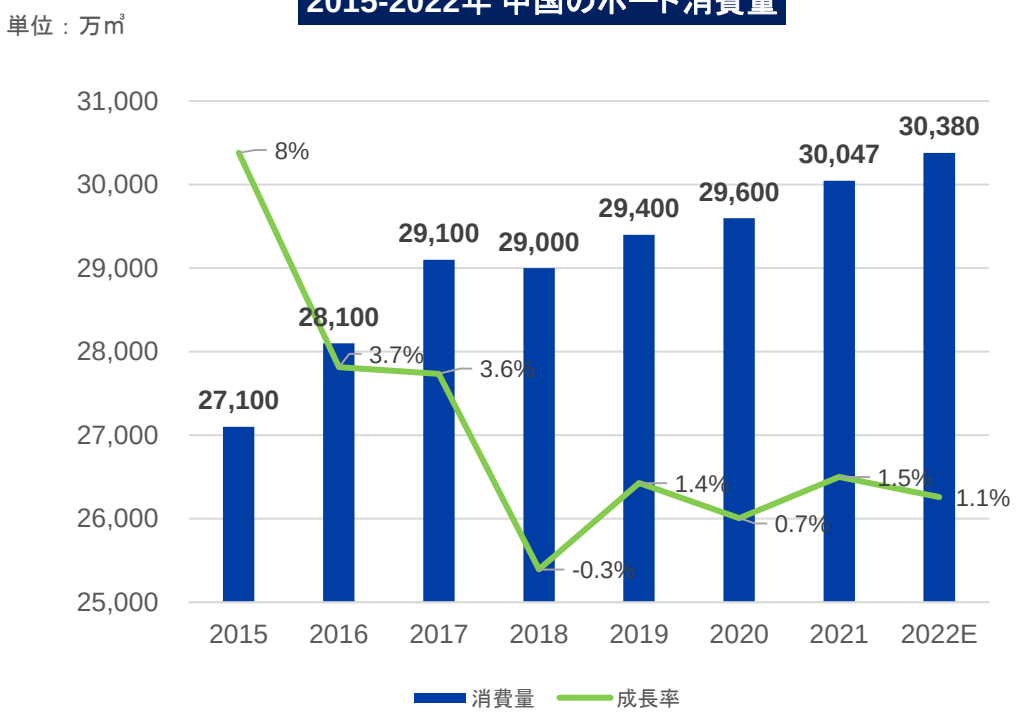
（出所）中研普華産業研究院「2022木材市場深度調研報告」
※各業界の比率は業界関係者へのヒアリング結果から推算

4 木材の消費について 中国のボード消費

- **ボードの消費量**：2021年の中国のボード消費量は約3億㎥で、前年比1.5%増加した。2022年の消費量はわずかに成長する見込み。
- ボードの消費内訳：合板は中国で最も多く消費されているボードである。2021年の合板消費量は1億8,800万㎥で、ボード消費全体の62.7%を占めた。ファイバーボード（MDF）が20%で続き、パーティクルボードが10.6%で3位となった。
- **ボードの用途**： ボードの主な用途は、インテリア、家具、建築、床材、ドア・窓枠、包装材料など。なかでも家具やインテリアの使用量が最も多く、その他は主に建築、包装、コンテナの床板などに使われている 。（業界関係者へのヒアリング）

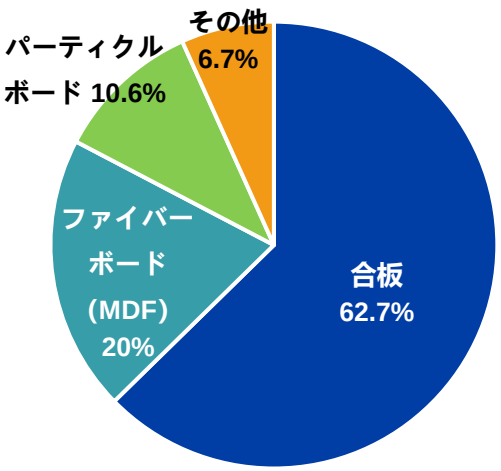
※ ボードの定義はP4参照

2015-2022年 中国のボード消費量



（出所）中商産業研究院「2022年中国人造板行業発展現状及発展趨勢預測分析」
2022年の値は見込み。

2021年 中国のボード別消費シェア

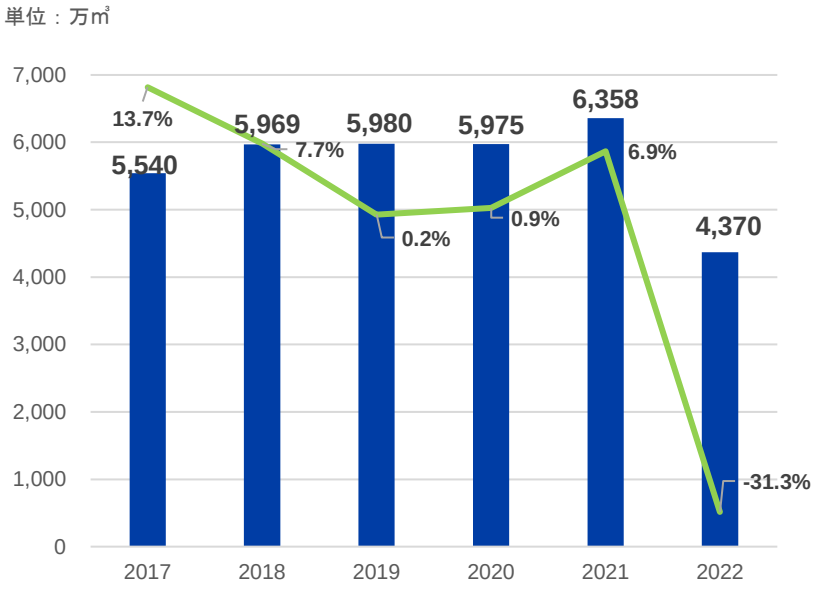


（出所）中商産業研究院「2022年中国人造板行業発展現状及発展趨勢預測分析」

5 木材の輸入について 中国の丸太輸入

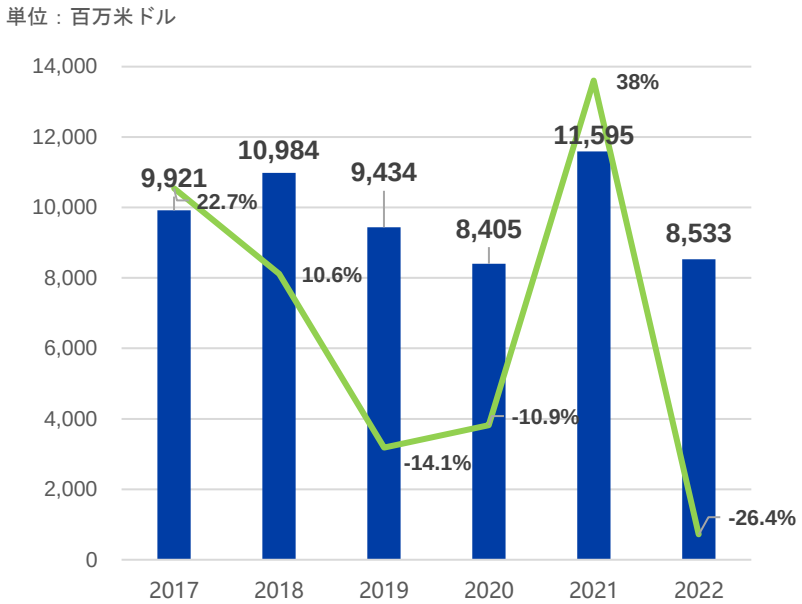
- **丸太の輸入量および輸入額**：2022年末時点で、中国の丸太（針葉樹だけでなく広葉樹を含む。）の輸入量は約4,370万㎥で、前年比31.3%減少。輸入額は85億3,300万米ドルで、前年比26.4%減少している。
- **2022年の変動要因**：コロナの発生を受けた木材ニーズの減少や物流の混乱、さらにはロシアにおける丸太輸出規制などを背景に、2022年の中国の丸太輸入量及び輸入額は前年比で大きく減少した。最新データによれば、2023年1～5月期の中国丸太輸入量は前年同期比8.7%減で約1,647万㎥。輸入額も前年同期比19.8%減で29億1,840万米ドルとなっている。

2017-2022年 中国の丸太輸入量および成長率



（出所）智研諮詢「2022年中国木材行業市場供需現状及進出口貿易分析」

2017-2022年 中国の丸太輸入額および成長率



（出所）智研諮詢「2022年中国木材行業市場供需現状及進出口貿易分析」

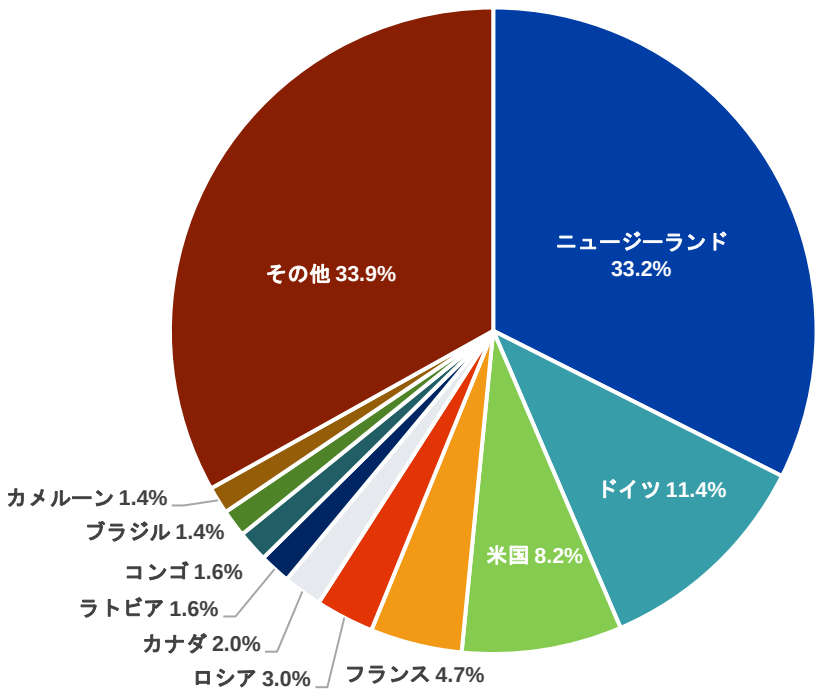
6 木材の輸入について
中国の主要丸太輸入元（国・地域）

- **丸太の主要供給国および地域**：中国の針葉樹丸太の主な輸入元国・地域は、ニュージーランド、ドイツ、米国、ロシアなど。なかでもニュージーランドからの輸入が最も多い。
- **輸入丸太の種類および用途**：ニュージーランドから輸入される丸太は主にラジアータパインで、建設業界や合板材料に使われている。ドイツから輸入される丸太は雲杉が多く、主に建設用木材として使用されている。米国から輸入される丸太は主にブラックウォールナットやオークで、主に家具材として使用されている。ロシアから輸入されているのは主に樟子松やカラマツで、特に東北地方の建設用途にはロシア産のカラマツが多く使用されている。（業界関係者へのヒアリング）

順位	国・地域	2022年（千万元）	国・地域	2021年（千万元）
1	ニュージーランド	1,792	ニュージーランド	2,168
2	ドイツ	680	ドイツ	1,247
3	米国	489	米国	638
4	フランス	281	ロシア	535
5	ロシア	181	パプアニューギニア	319
6	カナダ	146	フランス	229
7	ラトビア	95	ソロモン諸島	206
8	コンゴ	95	カナダ	190
9	ブラジル	85	ウルグアイ	190
10	カメルーン	84	チェコ	175

（出所）木頭雲「2019-2022年中国丸太輸入国変化分析」

主な丸太輸入国および地域（2022年）



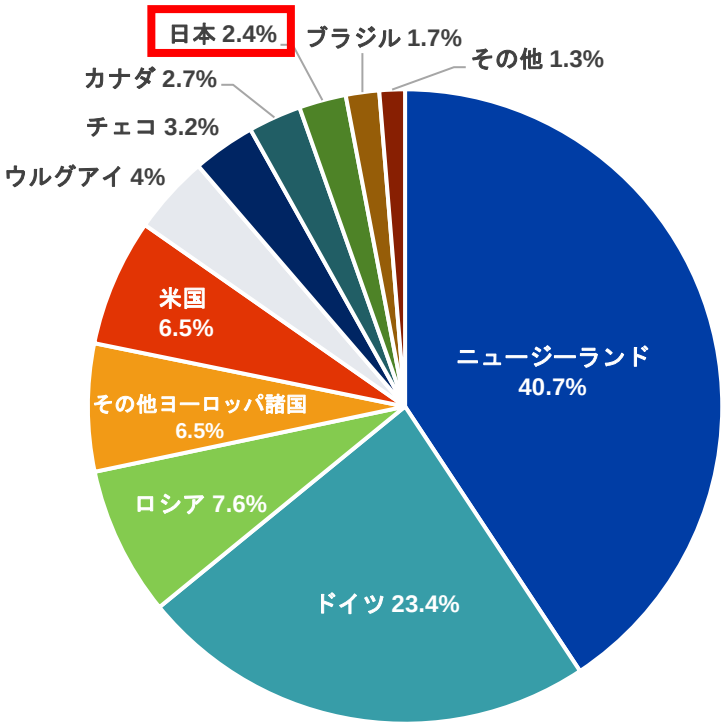
（出所）木頭雲「2019-2022年中国丸太輸入国変化分析」

7 木材の輸入について
【参考】中国の主要針葉樹丸太輸入元（国および地域）

国・地域	2021年（万㎥）	2020年（万㎥）	前年比	主な丸太の種類
ニュージーランド	2,031	1,615	25.8%	ラジアータパイン、ダグラスファー
ドイツ	1,167	998	16.9%	雲杉、オーク、ブナ
ロシア	376	423	-11%	樟子松、カラマツ、バーチ
その他ヨーロッパ諸国	326	180	81.1%	バーチ、オーク ブナ
米国	324	262	24%	ブラックウォールナット、ホワイトパイン、オーク
ウルグアイ	201	89	125.5%	松、ユーカリ
チェコ	159	338	-53.9%	雲杉、カラマツ
カナダ	132	120	10.5%	雲杉、ダグラスファー、ヘムロック
日本	121	93	29.9%	スギ
ブラジル	83	20	317.6%	ユーカリ
その他	64	529	-87.9%	レッドサンダルウッド、マホガニー、ウォールナット、チークなど
合計	4,984	4,667	6.8%	/

データ出所：税関総署、インターネット公開情報

主な丸太輸入国および地域（2021年）



8 木材の輸入について
輸入丸太（現地の状況：山東省）

- 中国の木材輸入港は江蘇省と山東省に集中している。丸太の取り扱いが多い港は次のとおり。
  - 山東省：日照市（嵐山港）、煙台市（蓬莱港）、青島市
  - 江蘇省：太倉市、張家港市、靖江市、鎮江市（新民洲港）、大豊市、常熟市
  - その他：広西欽州市、福建漳州市（業界関係者ヒアリング）

山東省・日照

山東省・日照

山東省・日照

山東省・日照

（出所）作成者撮影

木材の輸入について

輸入丸太（現地の状況：江蘇省）

江蘇省・鎮江（新民洲碼頭）

江蘇省・太倉（万方龍達木材園区）

江蘇省・鎮江（新民洲碼頭）

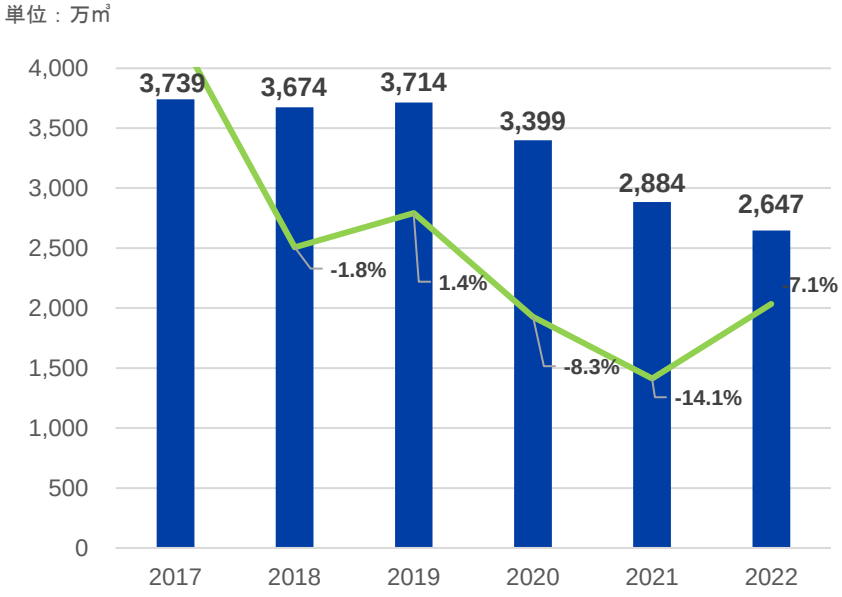
江蘇省・太倉（万方龍達木材園区）

（出所）作成者撮影

10 木材の輸入について 中国の製材輸入

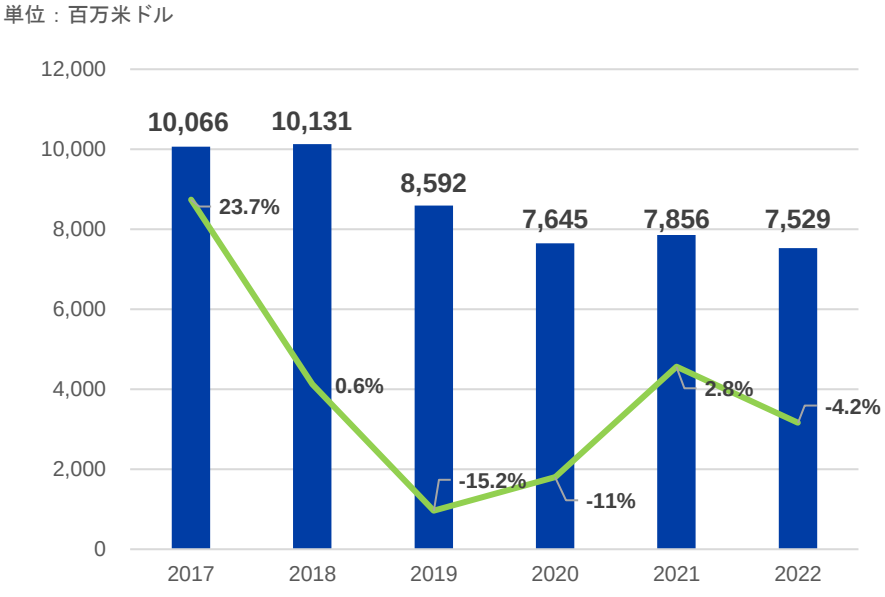
■ **製材の輸入量および輸入額**：2017年から2022年にかけて、中国の製材輸入は減少傾向にあった。2022年の中国製材輸入量は2,647万㎥で、前年比7.1%減少。輸入額は75億2,900万米ドルで、前年比4.2%減少している。

2017-2022年 中国の製材輸入量および成長率



（出所）中商産業研究院「中国製材市場前景及び投資機会研究報告」

2017-2022年 中国製材輸入額および成長率



（出所）中商産業研究院「中国製材市場前景及び投資機会研究報告」

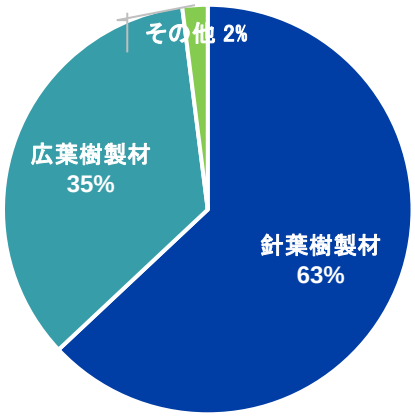
11 木材の輸入について 中国の製材輸入の内訳

- **輸入製材の内訳**：2022年の製材輸入量は2,647万㎥、輸入額は75億2,900万米ドルであった。うち、針葉樹製材の輸入量は1,670万㎥で、総輸入量の63%を占め、前年比で13%減少している。広葉樹製材の輸入量は933万m³で、総輸入量の35%を占め、前年比で1%増加している。
- **製材の主要輸入元（国および地域）**：2022年の製材の主な輸入元はロシア、タイ、カナダ、米国、ウクライナ、フィンランド、フィリピン、ドイツ、ガボン、ブラジルの順。うちロシアが最も多く、全体の48.8%を占めている。

	2022年輸入量（万㎥）	2022輸入額（億米ドル）	平均価格（米ドル/㎥）	主要輸入元（国および地域）（万㎥）
輸入製材全体	2,647	75.3	284	ロシア（1,308.7)、タイ（396.6）、米国（102.8）
針葉樹製材	1,670	40	234	ロシア（1,191）、カナダ（135）、フィンランド（83.5）
広葉樹製材	933	34.8	381	タイ（396.6）、ロシア（119）、米国（102.8）
その他	44	0.5	/	/

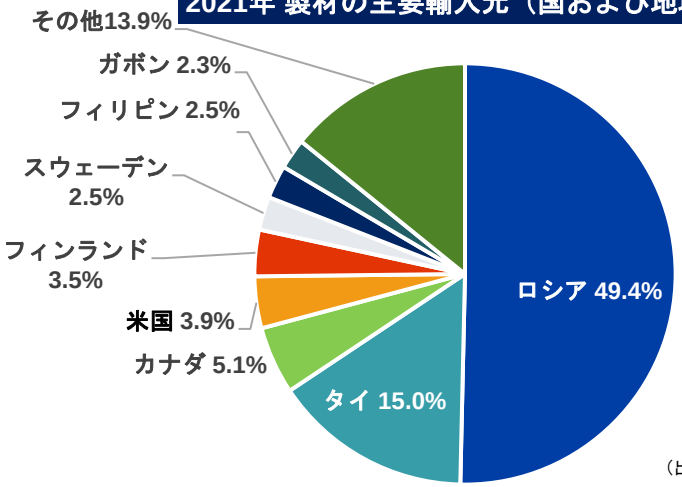
（出所）正材網、山東林業産業網，板材網

2022年 針葉樹製材および広葉樹製材の輸入比率



（出所）正材網、山東林業産業網

2021年 製材の主要輸入元（国および地域）



（出所）公開情報より作成

木材の輸入について

輸入丸太加工後の製材（現地の状況）

江蘇省・鎮江（新民洲碼頭）

江蘇省・太倉（万方龍達木材園区）

江蘇省・鎮江（新民洲碼頭）

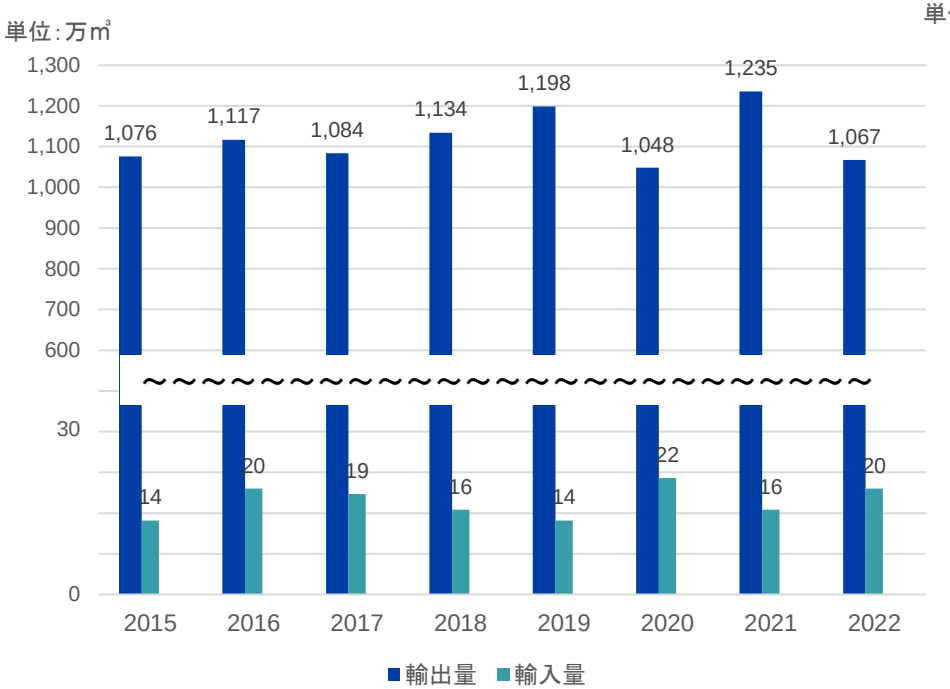
江蘇省・太倉（万方龍達木材園区）

出所：作成者撮影

13 木材の輸入について 中国の合板輸入

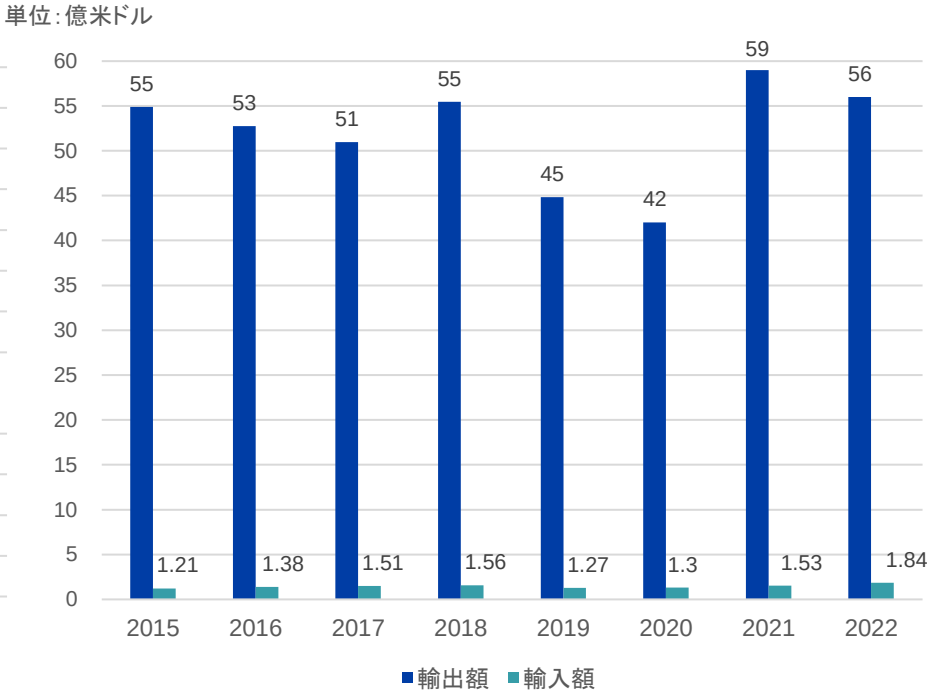
- **合板の生産量および輸出量**: 前瞻産業研究院によると、中国のボード生産量は世界全体の約6割を占め、世界一の規模を誇る。2022年の中国の合板輸出量は1,067万㎥で、前年比13.6%減少。また、輸出額は56億3,000万米ドルで、こちらも前年比で4.5%減少している。
- **中国の合板輸入量**: 2022年の中国合板輸入量は20万㎥。金額は1億8,400万米ドルと極めて少ない。

2015-2022年 中国の合板輸出入量



（出所）中商産業研究院「中国膠合板及び類似多層板市場前景及び投資機会研究報告」

2015-2022年 中国の合板輸出入額



（出所）中国木業網「中国膠合板類製品輸出入貿易現状及び特徴分析」

14 木材の流通について 中国向け木材輸出フロー

■ 日本から中国へ木材輸出する際には、原産地証明書、植物検疫証明書、燻蒸処理証明書などの書類を提出しなければならないため、事前に準備しておく必要がある。

木材輸入の必要証明書類（日本側輸出者・物流代理企業用意）

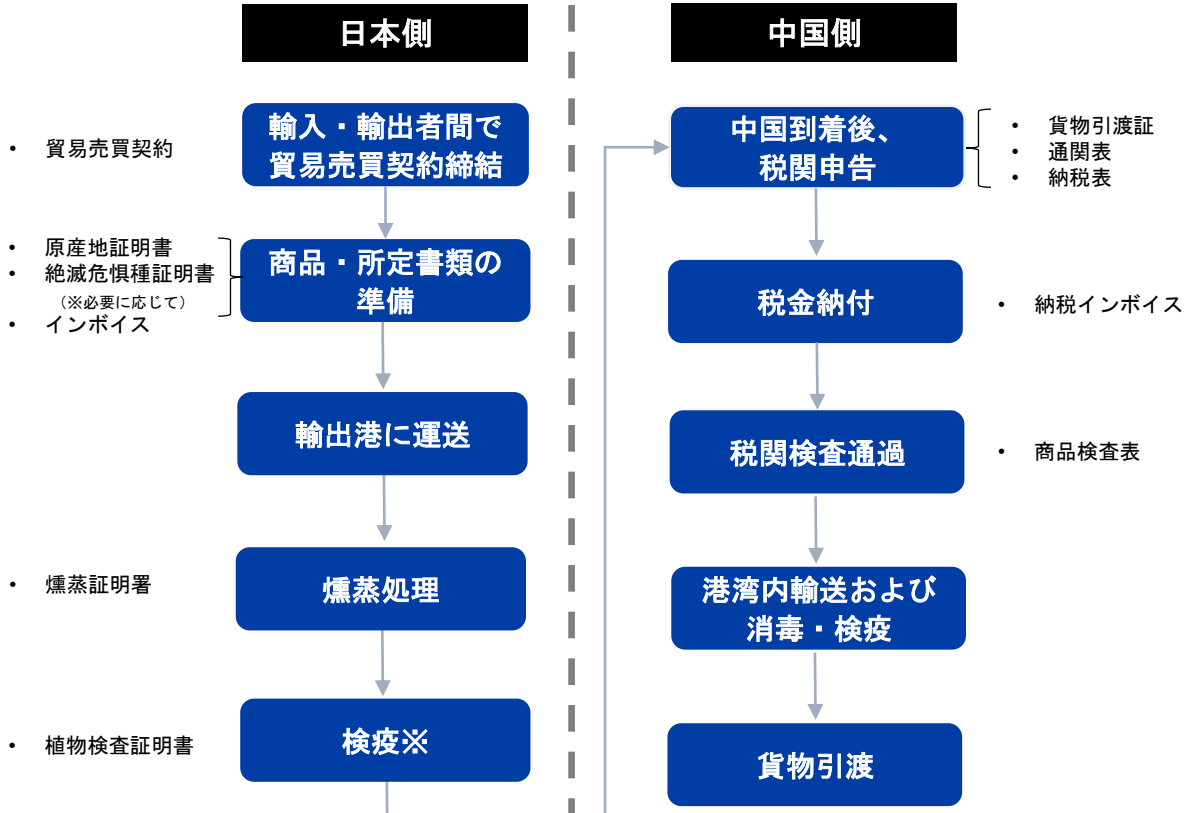
- 貿易売買契約書
- コマーシャルインボイス
- 原産地証明
- 植物検査証明書
- 燻蒸証明書
- 積荷明細書
- パッキングリスト
- 船荷証券

木材の輸入関税

丸太	0%（増値税※9%）
製材	0%（増値税※13%）

港に到着してからの所要日数

項目		所要日数
船荷証券の交換		0.5日
税関検査通過	検査申告書類交付	2日
	通関完了	1日
港湾内の輸送および消毒・検疫		2~4日
貨物引渡		0.5日



※「輸入丸太検疫要求の執行に関する関連通知」によると、樹皮が付いたままの丸太を輸入する場合、輸出国・地域において、有効な防除処理（燻蒸処理、熱処理、浸漬処理など）を行い、かつ植物検疫証明書に防除処理の方法、使用した薬剤の名称・使用量、処理時間及び温度を明記しなければならない

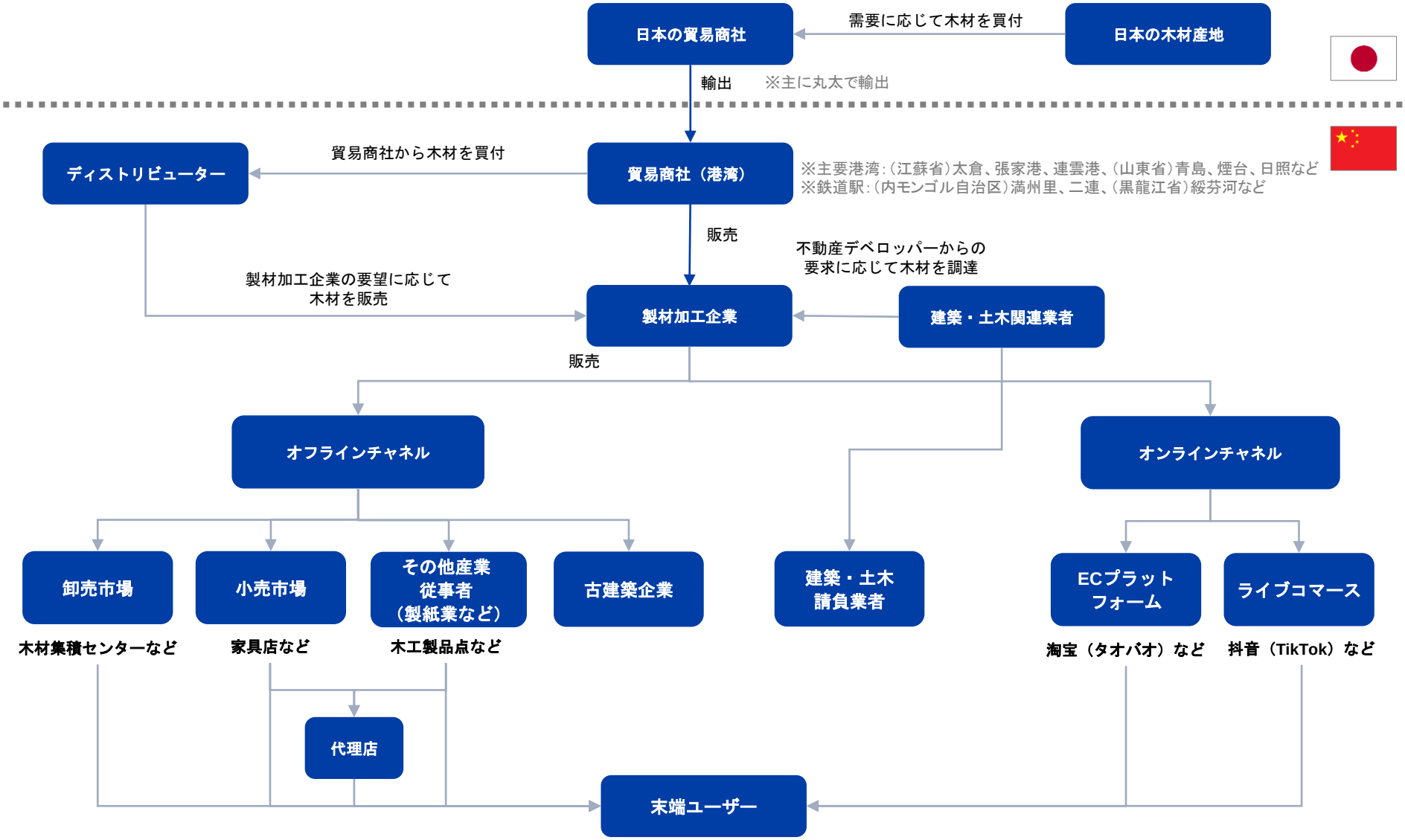
※「マツ材線虫病発生国のマツ材輸入の植物検疫要求に関する公告」によると、2022年2月1日以降、マツ材線虫病流行地域（米国、カナダ、メキシコ、ポルトガル、スペイン、日本、韓国）から輸入するマツ材は、輸出国において検疫検査を行う必要がある

（出所）業界関係者へのヒアリング、税関総署

15 木材の流通について
【参考】中国向け木材輸出関連規制

カテゴリ	項目	品目	法規名	関連リンク
品目・関税	品目・関税	共通	中華人民共和国輸出入税則（2020版）	http://gss.mof.gov.cn/gzdt/zhengcefabu/201912/t20191230_3452186.htm
輸入規制	中国が原木・製材の輸入を停止している都道府県なし			
輸入手続き	輸入許可、輸入ライセンス等、商品登録等（輸入者側で必要な手続き）	共通	輸出入商品検査法	http://www.customs.gov.cn/hhht_customs/4450383/4481085/index.html
		共通	輸出入商品検査法実施条例	http://www.customs.gov.cn/customs/302249/302266/302267/2369666/index.html
	輸入時の検査・検疫	共通	中華人民共和国輸出入動植物検疫法	http://www.customs.gov.cn/customs/302249/302266/302267/2369559/index.html https://www.jetro.go.jp/ext_images/world/asia/cn/foods/pdf/custom_001.pdf（ジェトロ仮訳）
		共通	中華人民共和国輸出入動植物検疫法実施条例	http://www.customs.gov.cn/customs/302249/302266/302267/2369707/index.html https://www.jetro.go.jp/ext_images/world/asia/cn/foods/pdf/custom_002.pdf（ジェトロ仮訳）
		木材	輸入原木検疫要求の執行に関する関連通知	http://www.mofcom.gov.cn/article/bg/200301/20030100064161.shtml
		木材	マツ材線虫病発生国のマツ材輸入の植物検疫要求に関する公告	http://www.customs.gov.cn//customs/302249/302266/302267/4122342/index.html
		木材	輸出入検査検疫業界標準「輸出入木製品検疫規程」（SN/T 2369-2009）	https://www.doc88.com/p-9973947191718.html
		木材	輸入原木防除処理方法および技術要求	https://www.lawtime.cn/info/baoguanshangjian/baoguanshangjianfalv/2012012015789.html

16 木材の流通について
中国における木材流通フロー（全体像）



（出所）業界関係者へのヒアリング

17 木材の流通について
中国における木材流通チャネル

木材卸売市場・製材加工場

（出所）作成者撮影

家具店

（出所）作成者撮影

オンラインチャネル

ECプラットフォーム

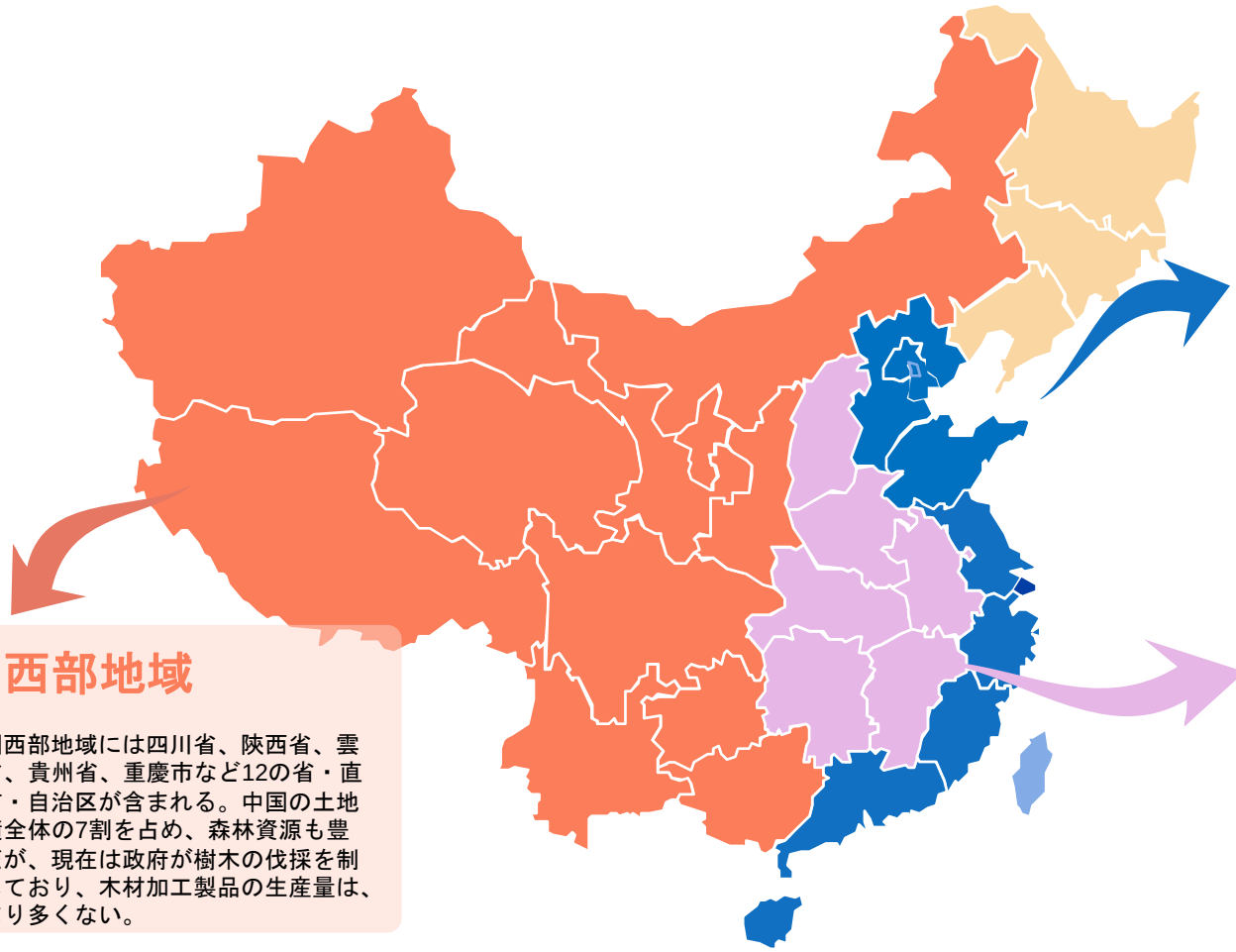
淘宝（タオバオ）

ライブコマース

抖音（TikTok）

（出所） 淘宝（タオバオ）および抖音（TikTok）のスクリーンショット

18 中国における木材関連産業の主要3地域の現状



■東部地域

中国東部地域の木材市場は、主に長江デルタおよび渤海エリアに集中しており、ここには北京市、河北省、山東省、福建省、広東省、海南省など10以上の省・直轄市が含まれる。人口規模や経済規模が大きく、木材加工や木工製品の生産および消費量も中国国内トップ水準にある。関連産業の技術水準や生産力、市場シェアなどもトップレベルとなっている。

■西部地域

中国西部地域には四川省、陝西省、雲南省、貴州省、重慶市など12の省・直轄市・自治区が含まれる。中国の土地面積全体の7割を占め、森林資源も豊富だが、現在は政府が樹木の伐採を制限しており、木材加工製品の生産量は、あまり多くない。

■中部地域

中国中部地域には山西省、河南省、湖北省、湖南省、安徽省、江西省の6つの省が含まれる。中国の主要な林業集積エリアであり、木材加工企業が集中。全体的に関連産業が発達している。
また、東部と西部を結ぶ地域でもあり、同地域の木材加工産業は高い発展潜在性を秘めている。

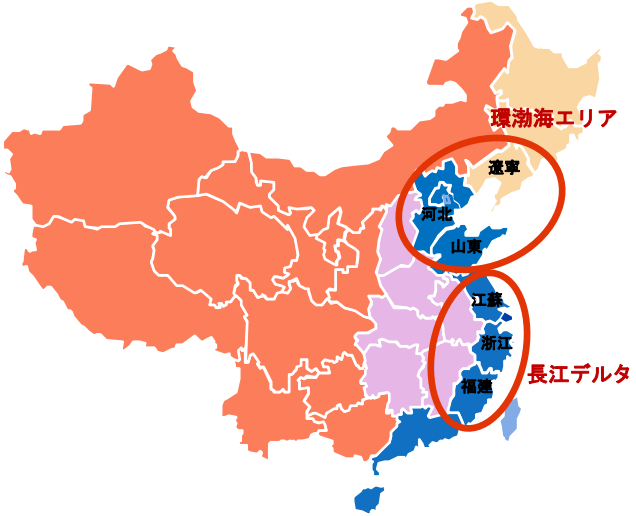
（出所）中国木業網

19 中国における木材関連産業の主要3地域の現状
東部地域

■東部地域

（1）長江デルタ

- **経済が発達し、木材需要も大きい**：長江デルタは木材加工産業が発展した地域であり、合板、床板、角材などの製品加工が発達している。
- **江蘇省は中国最大の丸太輸入省**：長江デルタには江蘇省、上海市、浙江省、福建省などの省および直轄市が含まれる。なかでも江蘇省はここ数年、丸太の輸入量が中国全体の40%前後に達している。主要な木材輸入港は太倉万方国際碼頭、張家港、鎮江新民洲港、連雲港、常熟興華港など。当局による環境規制の厳格化に伴い、一部の中低級木材加工産業は中部地域に移転し始めている。
- **木材加工企業は江蘇省および浙江省に集中**：江蘇省と浙江省の主要木材加工企業は生産ラインも整備され、技術や設備、技術開発などの点でも中国トップレベルにある。長江デルタの木材製品は中国市場で高い競争力を誇り、江蘇省の邳州および浙江省の嘉善は、中国の二大ボード産業集積地でもある。また、浙江省南潯は中国林産工業協会から「中国木製床板の都」の栄誉が授与されている。



（2）環渤海エリア

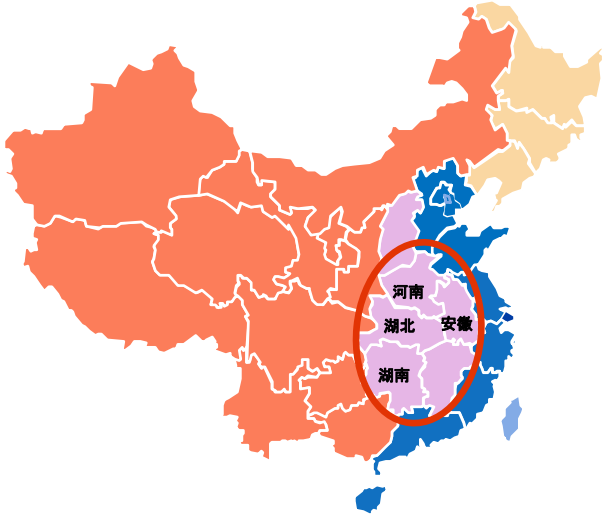
- **山東省、河北省、遼寧省が中心**：環渤海エリアの木材および関連製品の輸入、生産、加工は、山東省、河北省、遼寧省の3省に集中している。港は主に青島港、日照（嵐山）港、煙台港、大連長興島港など。
- **山東省、河北省にボード産業が集中**：山東省は中国第二の丸太輸入省となっている。ボードの領域に優れた生産、検査、販売システムを有し、臨沂と菏澤が二大ボード産業集積地となっている。河北省文安は中国の四大ボード産業集積地の1つであり、ここでは合板、ファイバーボード、パーティクル（チップ）ボード、多層板、建築用テンプレートなどが製造されている。

（出所）中国木業網、木材之家、業界関係者へのヒアリング

中国における木材関連産業の主要3地域の現状
中部地域

中部地域

- **産業移転先**：ここ数年、土地や人件費の高騰のほか、環境保護の高まり、原材料輸送コスト上昇などの影響を受け、長江デルタ、珠江デルタ、環渤海エリアにある企業が中部地域へ移転するケースが増えている。日本から多くの木材を輸入している江蘇省・太倉市も、当地の木材貿易会社や加工工場の多くが、環境保護基準を満たさないなどの理由で太倉を離れ、江蘇省・鎮江市や安徽省など周辺都市に移転している。（業界関係者へのヒアリング）
- **河南省、安徽省、湖北省のボード産業が急成長**：「中国林業和草原統計年鑑」によると、2020年の中国の中密度ファイバーボード（MDF）生産量ランキングトップ10省・直轄市のうち、河南省、安徽省、湖北省が372万9,800㎥、334万6,600㎥、282万3,900㎥で、それぞれ第5、6、8位となっている。



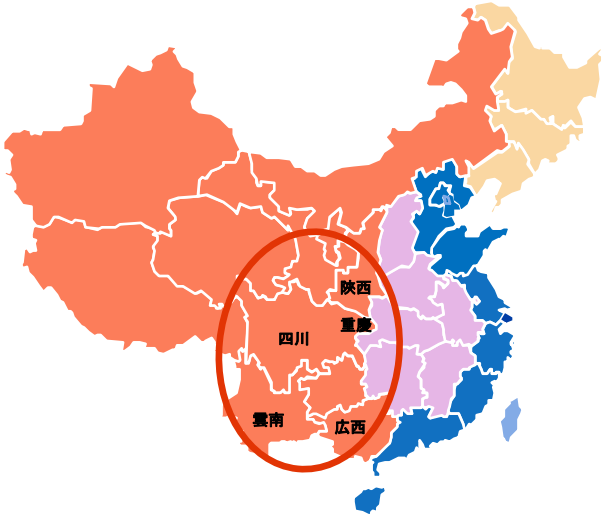
- **河南省は交通のハブ**：河南省は中国で最も人口の多い省であり、労働力が豊富かつ人件費も比較的安い。また、鄭州市は中国最大の交通ハブの1つであり、輸送コストも安く、ボードの生産量でも中国国内トップレベルにある。主要産地は鄭州のほか新郷、蘭考、洛陽など。
- **湖北省は水運が発達**：湖北省・監利は南を長江、北は襟襄水に接し、東は洪湖、西は江陵、石首に面している。このため水運が発達しており、輸送コストの高い木材にとっては条件の揃った立地となっている。張家港から監利までの水上輸送には1週間しかかからず、輸送コストの大幅な削減が期待できる。（業界関係者へのヒアリング）
- **湖南省は家具産業集積地**：湖南省は現時点での生産量はあまり多くないが、発達した水上輸送システムと新興の家具産業集積地があり、今後中部地域の重要な木製家具取引市場の1つになることが見込まれている。

（出所）中国木業網

21 中国における木材関連産業の主要3地域の現状
西部地域

■西部地域

- **豊富な森林資源**：西部地域の四川省、チベット、雲南省、陝西省などの省・自治区は森林資源が豊富で、労働力にも恵まれている。一部の省・自治区は今後、中国の木材加工の重点エリアになると見込まれている。
  - **四川省はファイバーボード産業が発達**：四川省は、林業資源の豊富な省として知られ、森林蓄積量は中国第3位。ボードは西部地域で比較的大きな市場シェアを占め、ボード業界の発展に伴い、川下の家具業界も発展しつつある。なかでもファイバーボードは省内複数エリアで支柱産業の1つとなっている。
  - **広西チワン族自治区は合板基地を建設中**：広西チワン族自治区では近年森林蓄積量が急増しており、特にユーカリ資源が豊富。2022年に蒼梧県で、年間生産量22万㎥の合板生産ラインと2億㎡の国家予備林基地を一体化した建設プロジェクトが始動し、将来的には周辺地域・都市でのボード生産および販売量のさらなる増加が見込まれている。



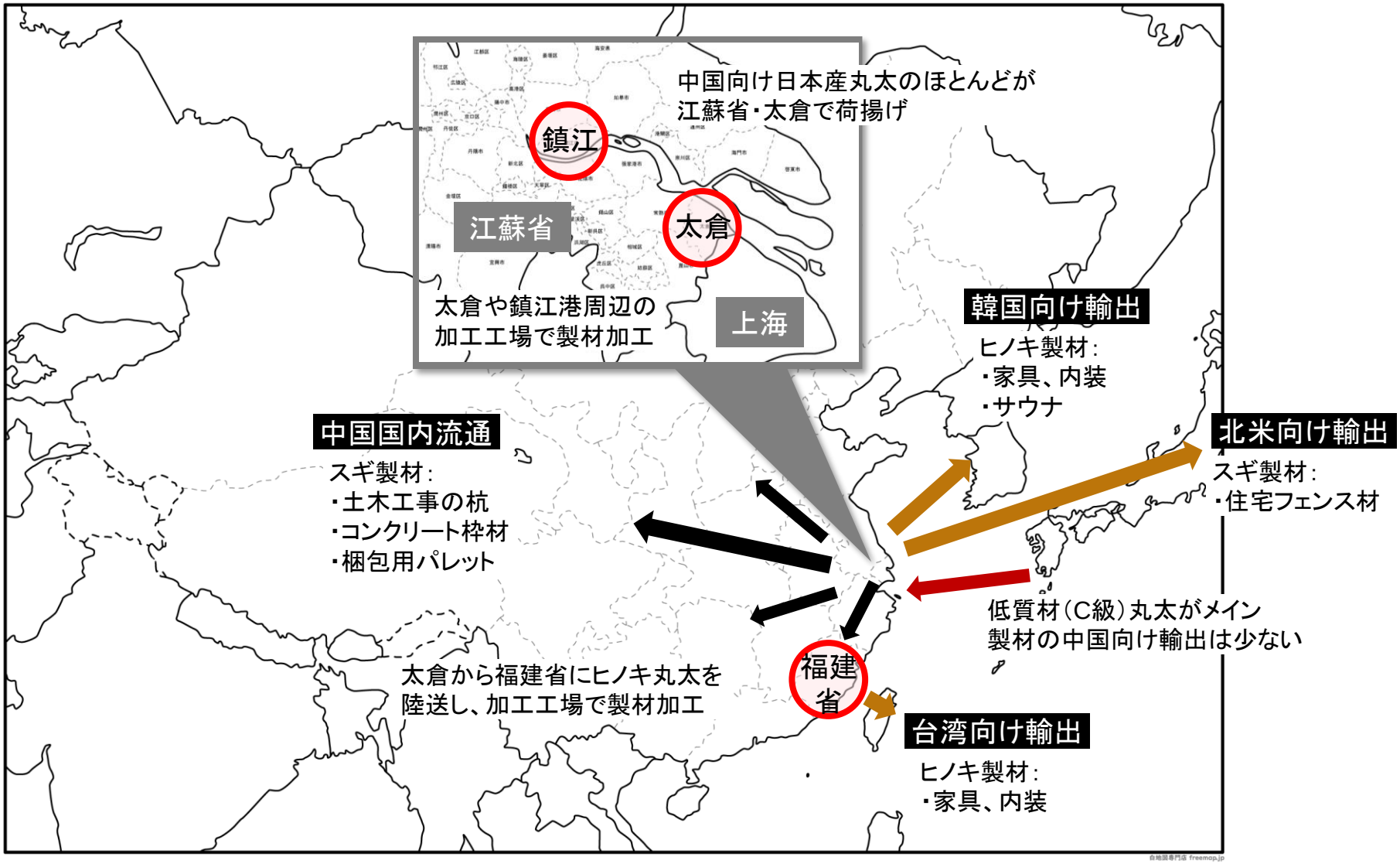
- **雲南省、陝西省が急成長中**：雲南省の森林蓄積量は中国第2位、生産量は3位で、今後、木材関連業界が急成長すると見込まれている。陝西省は中国西部地域において、木材加工業が最も目覚ましく発展している省で、生産されるボードの種類も豊富となっている。
- **重慶市は西南地域最大の木材取引市場**：重慶市は中国政府が認定した国際消費中心都市で、西南地域の経済を牽引している。現在、西南地域最大の国際総合木材取引市場である「鼎潤富康国際木材城」を建設中で、2021年末にはすでに一期工事が完成し、稼働を開始している。すべてが完成すると、年間生産高は60億元に達すると見込まれている。

（出所）中国木業網、昆明信息港、新浪家居

中国における日本産スギ・ヒノキの流通および用途

- 中国における日本産スギおよびヒノキの流通全体像
- 中国における日本産スギ
  - 流通経路
  - 主な用途
  - 主な用途（イメージ）
- 中国における日本産ヒノキ
  - 流通経路
  - 主な用途
  - 主な用途（イメージ）

1 中国における日本産スギおよびヒノキの流通全体像



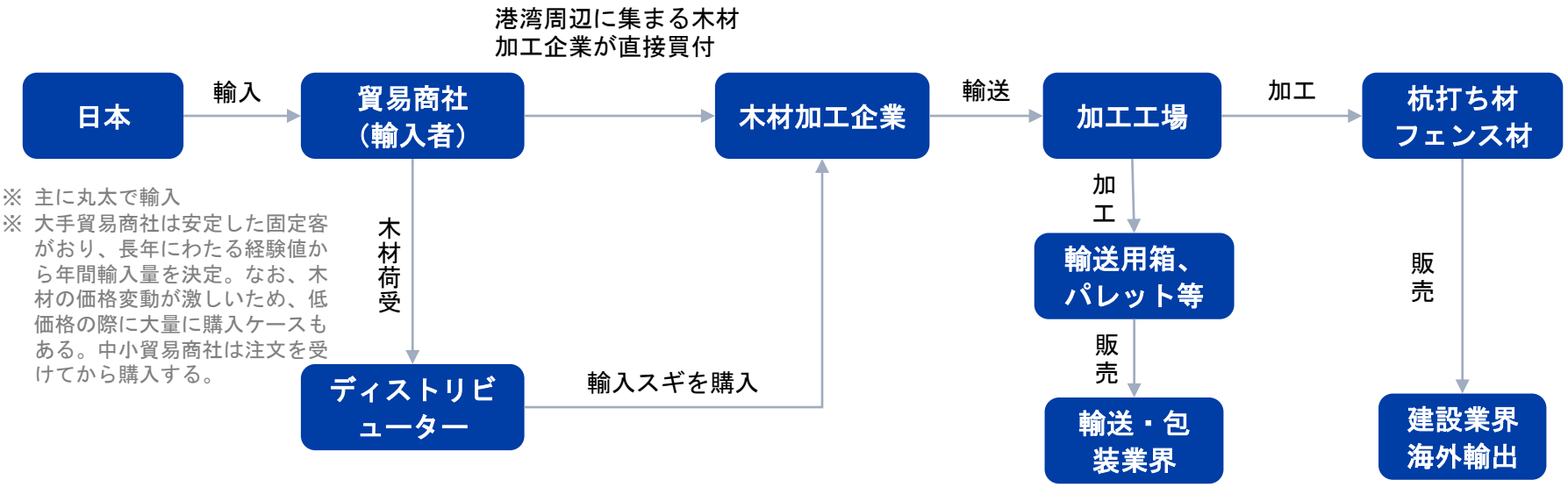
データ出所：業界関係者へのヒアリング

2 | 中国における日本産スギの流通経路

- **日本産スギは主に丸太で輸入**：日本から輸送された丸太は、一旦港湾で長さや径級サイズに応じて仕分けされる。通常、港湾周辺に集まる木材加工企業が、貿易商社から直接港湾で仕入れ、加工した後に物流、包装、建築などの業界向けに出荷している。

スギの流通経路

※中国向け木材の日本から中国までの輸出フローについてはP17参照



※ 主に丸太で輸入
※ 大手貿易商社は安定した固定客がおり、長年にわたる経験値から年間輸入量を決定。なお、木材の価格変動が激しいため、低価格の際に大量に購入ケースもある。中小貿易商社は注文を受けてから購入する。

スギの貿易･加工企業の声

- 日本産スギを輸入している蘇州周集国際貿易有限公司は、輸入木材の70%が日本産スギで、多くは江蘇省、浙江省、上海などで販売されている。
- 江蘇省・太倉の加工企業である南旗木業と滬華木業の両社は日本産スギも加工しているが、その割合は業務全体の10%に満たないという。加工後の木材は川下のパレット材として販売されている。

- 中国国内のスギ丸太の一部はフェンス材に加工され、米国向けに輸出
- 杭打ち材は主に中国国内で使用

（出所）業界関係者へのヒアリング

3 中国における日本産スギの主な用途

- **中国向け輸出のほとんどがC級材**：日本産スギ丸太はA、B、C、Dの4つの等級に分かれている。うち、AとB級は高品質で価格も高く、その多くは日本国内で消費されている。またD級は品質が低く、多くは燃料として使用されている。現在、中国に輸入されているスギ丸太はC級がメインとなっている。
- **主な用途**：現在、中国では日本でスギ丸太がどのように加工され、どのような用途に利用されているか等の情報がほとんどない。このため、日本産スギ材は、これまで使用されている包装材、パレット材、建築などの業界に限られている。
- **スギの新たな使用領域の開拓**：日本産スギ普及のためには、新たな応用領域を開拓する必要がある。今回ヒアリングした国有木材企業大手の中林時代によると、江蘇省・鎮江市の新民洲周辺には鉛筆メーカーの加工工場などがあり、日本産スギの潜在的ニーズもあるという。
- **中国市場ではスギの使用量が減少傾向**：
  - 上海の日系商社によると、2018年以前は、日本から輸入されるスギ材は、その50%以上がフェンス材として加工され、米国に輸出されていた。2022年は米国の住宅需要減でスギ材を使用したフェンス材用途が急減し、また2023年も米国の住宅ローンの高止まりによる影響で需要は戻っていない。（業界関係者ヒアリング）
  - 世茂、万科、碧桂園など中国不動産ディベロッパー大手各社は、中国各都市で複数の不動産開発プロジェクトを抱えているが、コンクリート施工の完成度を高めるために近年は木材ではなくアルミ金型を使うことが増えているという。結果的に木材の使用量が減少しており、最近では、木材は地方の小型家屋の施工などでの使用に限られつつある。

中国木材業界関係者の声

- 現在中国国内で流通している日本産スギ丸太の主要規格は最小径8～12cm、長さ3～4m。業界関係者へのヒアリングによると、中国市場では長さ5～6mの丸太が多く使われており、輸入スギ丸太の長さも5～6mであることが望ましい。
- 業界関係者へのヒアリングによると、日本産スギは木目がまっすぐで材質が柔らかく加工しやすい。また一定の防水性と防腐性も備えている。一方、木質がやや脆く、裂けやすいのが欠点。近年、スギ丸太の多くはフェンス材に加工され、米国向けに輸出されていたが、2022年は米国の需要が減少した。また中国国内では、日本産スギの加工技術（例えば、日本の木造住宅に使用されているスギ合板など）に関する情報が不足しており、パレットなどの用途に限られている。

（出所）業界関係者へのヒアリング

4 中国における日本産スギの主な用途（イメージ）

板材

杭打ち材

河川での杭打ち

パレット材

包装材

フェンス材

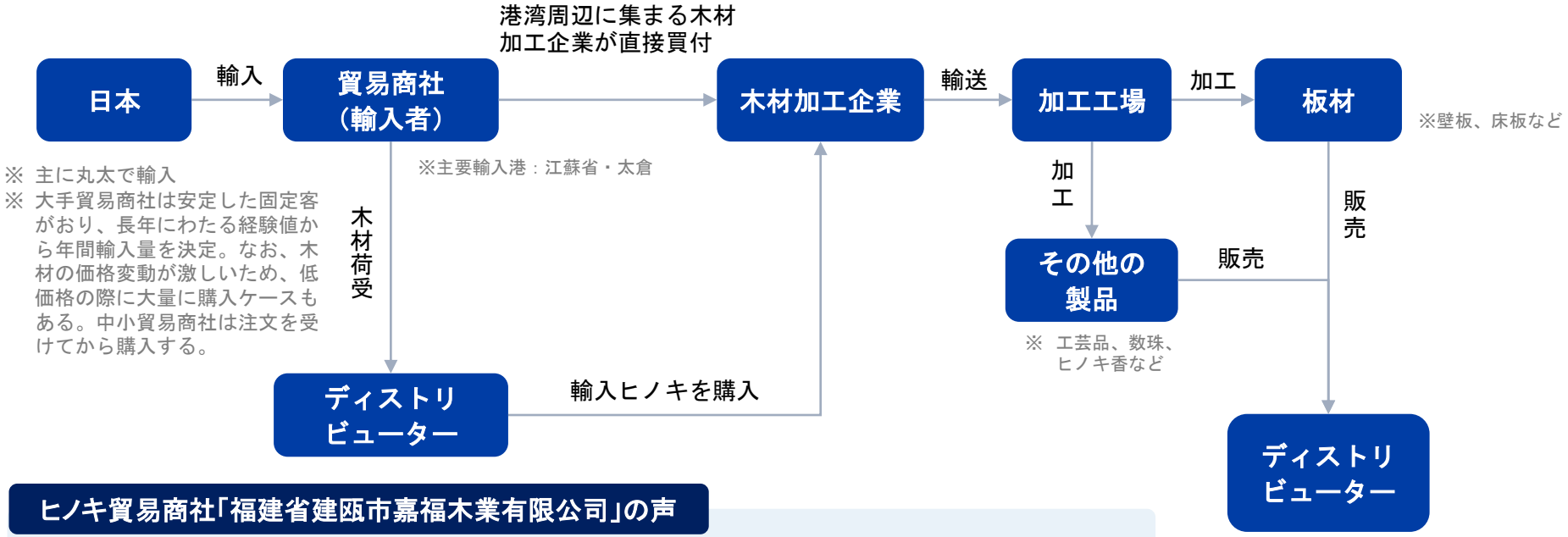
（出所）作成者撮影、ヒアリング対象先企業提供

5 中国における日本産ヒノキの流通経路

- **日本から丸太で輸入**：業界関係者へのヒアリング調査によると、現在、中国のヒノキ輸入量は少なく、主に丸太で輸入されている。ヒノキの主要輸入元国・地域は日本と台湾だが、一部は他国・地域からも輸入されている。
- **主要輸入港は江蘇省・太倉**：ヒノキは主に江蘇省・太倉港で荷上げされている。ヒノキは品質保持期限が短いため、輸入企業は通常、通関手続終了後、なるべく早く加工企業に届けて加工および販売するようにしている。

ヒノキの流通経路

※中国向け木材の日本から中国までの輸出フローについてはP17参照



- 板材は輸出が中心
- その他の製品は主に中国国内で販売

ヒノキ貿易商社「福建省建瓯市嘉福木業有限公司」の声

主に日本産ヒノキ丸太の輸入および加工に従事。ヒノキの通関手続や輸送上の便宜を図るため、太倉港に事務所を設置。輸入ヒノキ丸太は、港に到着後すぐに福建省にある自社工場に陸送して加工している。その多くはまず板材に加工され、その後、韓国、日本、台湾などに輸出している。なかでも韓国が特に多く、同社輸出全体の80～90%を占めている。現在輸入しているヒノキはB級とC級がほとんど。

（出所）業界関係者へのヒアリング

6 中国における日本産ヒノキの主な用途

- **中国向け輸出のほとんどがBおよびC級材**：一般的に、ヒノキはA、B、Cの3つの等級に分かれ、A級は材質が良く、肌理も細かく、丈夫で価格も高い。日本産のA級ヒノキは主に日本国内で流通しており、中国向けの輸出は、B級とC級が中心となっている。
- **主に板材に加工**：中国に輸出されるヒノキ丸太の多くは板材に加工され、壁板や床板、ヒノキ合板などに使われている。加工後の板材は節などがなければAA級、片面に節などがある場合はAB級、両面に節などがあればBB級の3つにクラス分けられる。
- **主な用途**：ヒノキは強度と弾力性に優れ、耐久性も高いため、建設、船舶、橋梁、枕木などに適している。現在、中国市場では主に家具、インテリア、工芸品、彫刻などに使用されている。
- **中国国内ではヒノキの認知度が低い**：中国国内ではヒノキはあまり使われておらず、ごく一部の日本式室内加工や高級内装などにヒノキ板材が使われているのみ。中国人のヒノキに対する認知度は低く、ヒノキの香りを好まない人も存在する。中国に輸出されるヒノキ丸太の多くは加工後、韓国、台湾、日本などに再輸出されている。
- **主に韓国と台湾に再輸出**：
  - 韓国ではヒノキの人気が高く、壁板や床板、浴槽、枕など多くの用途で一般家庭でも使われている。また、一部のサウナでもヒノキ板材が使用されている。韓国のヒノキ製品は基本的に輸入品で、中国で加工された後に韓国向けに再輸出されるケースが多い。
  - 業界関係者へのヒアリングによると、台湾にはヒノキが多く、品質も良いが、当地ではヒノキの伐採に対する管理が厳格で、一部のヒノキ製品は中国から輸入されている。台湾では、ヒノキは主に浴槽や足マッサージ器などに使われている。ヒノキは強度や復元性が高く、工芸品や家具としても人気が高い。

中国木材業界関係者の声

- 加工企業では輸入丸太の規格を長さ2.4m以上、断面寸法18cm以上としている。通常、中国の港湾で荷揚げされた日本産丸太は寸法が揃っていないことが多いため、貿易商社は港湾で中国での寸法に適した丸太を選ぶなど余分に時間がかかっている。輸出前に丸太のサイズをある程度揃え、輸入後の流通効率とスピードを高められるよう、日本側で対応してほしいと主張している。
- 現在、中国のヒノキ輸入量は少なく、福建省建瓯市嘉福木業有限公司の1ヶ月のヒノキ丸太加工量も約2,000～2,500m³に止まっている。同社は中国が輸入する日本産ヒノキ全体の約半分とのことで、加工後の板材の多くは韓国向けに再輸出されている。

（出所）業界関係者へのヒアリング

7 中国における日本産ヒノキの主な用途（イメージ）

ヒノキ板材

AA級

AB級

工芸品

マッサージ器

ヒノキ家具

壁・サウナ用板材

（出所）作成者撮影、ヒアリング対象先企業提供

業界別関係者ヒアリング結果まとめ

- 輸入者
- 製材加工企業
- 不動産ディベロッパー
- 内装業者

ヒアリング調査 概要

- 調査期間：2022年7月～2023年1月
- 対象社数：輸入者 7社（うち、2社は製材加工企業と重複）
  製材加工企業6社（うち、2社は輸入者と重複）
  不動産ディベロッパー3社
  内装業者2社

1 業界別関係者ヒアリング結果まとめ
輸入者

■ 輸入者の多くが日本産木材の取扱を減らす

- **日本産木材の需要減少**：不動産不況やゼロコロナ政策などの影響で、2022年の中国木材需要は全体的に減少傾向となった。輸入者数社へのヒアリングによると、経営が悪化した輸入者も多く、木材の輸入を控えるようになっているという。2022年は米国の住宅需要減でスギ材を使用したフェンス材用途が急減した。また2023年も米国の住宅ローンの高止まりによる影響で需要は戻っていない。（業界関係者へのヒアリング）
- 日本産木材の規格が中国での規格にマッチしていない：中国に輸入されている日本産スギ丸太は通常長さが3～4mだが、他国・地域からの輸入丸太は5～6mまたはそれ以上が一般的となっている。そのため、日本産スギ丸太は製材加工の歩留まりが低く、結果コスト高となることから、日本産よりもニュージランド産など他国・地域産を好んで取り扱う業者が多くなっている。

■ 一部の貿易商社は日本の木材関連企業との交流を希望

- **日本産ヒノキ輸入の拡大意図あり**：日本産ヒノキは現在中国国内での用途は限られており、その多くは中国で加工した後に、韓国や台湾、日本などに再輸出されている。しかし、価格と規格が中国側の要望に合えば、ヒノキの輸入量を増やし、中国国内での需要喚起を促したいと考えている貿易商社も一部存在する。
- **日本の木材関連企業とのさらなる交流を希望**：今回ヒアリング調査した木材貿易商社は、日本の木材関連企業と既に交流があるが、日本産木材の応用領域や使用方法について、さらに理解を深めたいと考えている。例えば、展示会や座談会などを開催し、日本と中国の木材関連企業が直接かつ相互に交流する機会を設け、日本の木材利用方法や加工技術などを中国の業界関係者に紹介する努力が必要とされる。

2022年は北米のフェンス材需要減で、日本産スギ丸太の輸入は小幅減。中国側には、日本の木材関連企業との交流や提携を希望する声もある

太倉万方碼頭

鎮江新民洲港

「過去には北米のフェンス材需要が大きく、日本から輸入するスギ丸太の量も比較的多かった。しかし2022年は北米の需要がほとんどなくなり、当社の日本産丸太需要も90%近く減少している」

—靖江国林木業

「ジェトロや日本の木材関連企業と、鎮江新民洲で交流会を開催し、日本産木材の優れた点や利用法などを紹介してほしい。また今後日本への実地研修なども企画してほしい」

—中林国際

（出所）業界関係者へのヒアリング

2 業界別関係者ヒアリング結果まとめ
製材加工企業

■ **日本から輸入される丸太は種類や規格が不揃いのため敬遠する傾向に**

- **日本産丸太に対する要望**：中国の製材加工企業へのヒアリングによると、日本から輸入される丸太は種類や径級、長さなどがバラバラで、港で買い付けの際に仕分けをしなければならない状況という。他国・地域からの輸入丸太はあらかじめ規格ごとに分類された状態で港に到着することから、必然的にそちらを選ぶ傾向が強くなっている。この規格の不揃い問題は、他国・地域産との競合において、かなり不利な状況となっている。

■ **日本の木材加工技術の導入**

- 現在、中国では日本産木材の応用領域が限られており、その多くが加工後に建築土木や梱包材として中国国内で流通されるか、住宅フェンス材として北米向けに輸出されている。今回ヒアリングした製材加工企業は、日本の木造住宅に使われているスギ合板の加工技術や、日本の木造住宅の耐震構造・技術など日本の木材関連技術を学びたいと考えている。また日本側も木造家屋の良さやヒノキの健康（癒し）効果など、日本産木材の用途に対するアピールを積極的に行うなど、中国での知名度や認知度を高める努力が欠けている。

製材加工企業は、港での日本産丸太の仕分け作業を省略したいと希望。また日本のスギ合板や耐震構造に関する加工技術を学び、日本産木材の応用領域を増やしたいとも考えている

「日本での木材の使用状況を理解し、関連の加工技術を中国に普及させ、新たな応用領域を生み出したい」

--中林集団 徐董事長

「四川省は地震が多い。四川省の木造建築物に日本の耐震構造や関連技術を取り入れたい」

—中林集団 朱副総

日本産木材の加工状況

スギ	ヒノキ
• 輸送パレット • 木箱用板材 • 北米向け住宅フェンス材 • 杭打ち材 • 一部は家具にも加工	• 主に板材（壁板、床板など） • 長さの足りないヒノキは家具や工芸品に加工することもあり • 加工で余ったスクラップや木屑はお香やビーズに加工

（出所）業界関係者へのヒアリング

3 業界別関係者ヒアリング結果まとめ
不動産ディベロッパー

■ **建設業界ではコンクリートの枠材としての使用が減少傾向に**

- **コンクリート施工にアルミ材を使用**：近年、中国の不動産ディベロッパー大手各社では、コンクリートを固める枠材として、木材ではなくアルミ製のモジュールを使用するようになっている。使用済みのアルミ製モジュールは、別の不動産開発プロジェクトでも使い回しできるため、全体的にコストも下げられるだけでなく、SDGsの観点からも、木材の使用を控える傾向にある。
- **木材原産国・地域に対する要求なし**：住宅内部の「竜骨（キール）」に木材を使用する場合、一般に含水率と変形率には一定の要求があるが、原産国・地域に対する要求は特にない。このため、元請業者がディベロッパーの要求に基づいて木材を調達しているが、通常は最も安価な国・地域産の木材を選択するケースがほとんどとなっている。
- **組み立て式マンションがトレンド**：中国では、建設効率が良く、現場での作業が少なく、環境保護にもメリットのある組み立て式マンションが多くなっている。現在、中国の主要都市での不動産開発プロジェクトの多くが、組み立て式を採用。結果的に木材の使用が更に減る結果となっている。

■ **地方都市の中小規模の不動産ディベロッパーに若干の木材ニーズあり**

- 地方都市の中小規模の不動産ディベロッパーでは、コンクリートの枠材に、依然としてアルミよりも木材を使用している。またコストをおさえるために、工事現地で回収した枠材を再利用しているケースが多い。

中国の不動産市況の低迷や、コンクリート施工にアルミ材を代用するなど、中国不動産業界で使用する木材の使用量が減少傾向に

竜骨（キール）

組み立て式マンション

（出所）ヒアリング対象先企業提供

（出所）業界関係者へのヒアリング

4 業界別関係者ヒアリング結果まとめ
内装業者

- **不動産市況低迷ながら、内装市場は成長を維持**
  - 中国の不動産市況低迷により、今後、住宅市場では新築住宅のシェアが低下していくと予想されている。中古住宅、リノベーション、古い町並みの改修、賃貸住宅などが、不動産開発の新たな方向性として注目されており、住宅リフォーム業界には新たな成長の可能性が期待できる。中国建築装飾協会の統計によると、ここ数年、中国の内装市場は成長を続けており、2022年末時点の市場規模は約2兆1,000億元で、2018～2022年の年平均成長率は11%増だった。
- **木製内装市場が急成長、木材産地に対する要求は特になし**
  - **木を使った内装需要増**：中国人の所得・消費水準上昇に伴い、内装・インテリアの個性化（パーソナライズ）のほか、デザインから施工に至るワンストップサービスに対するニーズが増えている。2022年の木製内装市場規模は約450億元で、前年比12.3%伸びた。
  - **木材の産地に対する要求は特になし**：住宅内装のうち木材が関係するのは壁板、木製ドア、階段、床板、天井など。材質は主にオーク、ウォールナット、チーク、パイン、チェリーなどが使われている。中国では通常、木材の材質や特徴に対する要求はあるが、産地に対する要求は特にないことが多い。業界関係者によると、 ホルムアルデヒド基準の「F☆☆☆☆（エフフォースター）」を満たす日本品質の素材を求める富裕層も一部いるが、中国国内メーカーの製造レベルが上昇し、ほぼ同じような品質の製品を作れるようになっているという。（業界関係者へのヒアリング）

現在、中国の内装業界で使用されている日本産木材は少なく、顧客が木材の原産国を指定するケースもほとんどない

「木製フローリングは需要が比較的多いが、無垢材はほとんどなく、合板が中心」
—蘇州艾麗艾朶軟装有限公司

「中国人は内装後のホルムアルデヒド臭を気にする人多い。ホルムアルデヒド規制、VOC（揮発性有機化合物）規制、GB基準などをクリアした安全な木材には発展の可能性が存在する」
--上海銀得隆建材有限公司

「内装で使用する板材は種類が多く、主にチェリーやチークなどが使われている。日本産ヒノキを使った内装もあるが、その数は非常に少ない」
—日系内装業者

（出所）ヒアリング対象先企業提供

（出所）観研天下「中国業界発展トレンド分析及び前景予測報告」、智研諮詢「中国樺木業界市場ニーズ分析及び戦略投資諮詢報告」

中国における日本産木材の実態（まとめ）

- 全体像
- 事業環境（政治・経済）
- 日本国内の課題
- 流通
- 日本産丸太の用途
- マーケティング・戦略

1 中国における日本産木材の実態（まとめ）
全体像

事業環境（政治・経済）

・中国不動産市況の低迷
・ロシア産丸太の輸入減
・中国当局の外交政策
・米国金利上昇

マーケティング・戦略

・マンション
・フローリング材
・日本式内装（和室）
・戸建て住宅
・日本式内装（水回り）
・「身の回り」ニーズ増
・「国潮」（愛国）トレンド
・「下沈」（地方）市場の富裕層開拓
・高齢化に伴う新規需要
・ECからリアルへと誘導
・SNSによるプロモーション

中国向け日本産木材輸出増

日本国内の課題

・港湾インフラ
・輸送船のサイズ
・輸出前の分別なし
・丸太の調達
・建材規格（サイズ）の違い

流通

・中国で流通する日本産木材は低質材がメイン
・変動が激しい丸太価格
・港の周辺に木材加工企業が集積
・製材の輸出には高いハードル

日本産丸太の用途

・建築資材
・米国向け住宅フェンス材
・梱包・パレット
・家具（ヒノキ）

（出所）業界関係者へのヒアリング

2 中国における日本産木材の実態（まとめ）
事業環境（政治・経済）

2022年には、低迷する中国不動産市況によるマンション建設の停滞、さらには中国当局による「ゼロコロナ」政策で物流も滞った。米国の金利上昇に伴い、住宅市場の先行き不透明感が増し、フェンス材需要も激減した。一方で、中国とオーストラリア両国間の対立により、オーストラリア産木材の中国向け輸出が停滞し、径級などで競合する日本産木材がマーケットを奪う形となった。

中国不動産市況の低迷

中国当局は2020年夏ごろ、不動産バブルの抑制を目的に不動産融資規制を強化したため、多くの不動産開発会社の資金繰りが悪化。マンション建設が一部中断するなど、消費者の購買心理にマイナスの影響を及ぼした。

日本から中国向け輸出丸太の多くを占めるスギの主要用途である建築現場でのコンクリート型枠需要も、この不動産市況低迷の煽りを受け、輸出が大きく減少した。

2023年に入り、中国当局はこの融資規制を一部緩和し、不動産セクターに対する追加的な支援策を打ち出しているが、不動産市況の回復の見通しはなお不透明のままといえる。

ロシア産丸太の輸入減

ロシアの主要貿易相手国である中国は、露ウクライナ紛争によるロシア産木材に対する制裁を背景に、輸出先としての役割がますます強まっている。ロシア産木材の輸出全体のうち、中国が占める割合は、2021年の44%から2022年には49%に上昇。2023年上半期には60%を超えている。

2023年上半期に、ロシアからの製材輸入量は650万9,000立方メートルで、前年同期比6.3%増加した。 一方、丸太は2022年1月1日から施行されたロシアの丸太輸出禁止策の影響もあり、95万6,000立方メートルで前年同期比32.2%減となり、縮小傾向が続いている。

中国当局の外交政策

日本産スギ丸太は、中国でニュージーランド産およびオーストラリア産のラジアータパインと競合している。特に径級が小さいオーストラリア産ラジアータパインとの競合関係が強い。近年、中国とオーストラリア両国の関係悪化を背景に、オーストラリア産の輸入が減ったが、2023年に入り、回復傾向を示している。2023年1～5月期には前年同期比41.5%増となった。

しかし、ニュージーランド産には、価格、規格（長さ、径級）、供給量の面で激しい競争を強いられている。

「もしオーストラリア産ラジアータパインの輸入が全面開放されれば、その低価格や質の高さで、他の国産の木材にとって脅威となる可能性がある」

--蘇州周集国際貿易有限公司 代経理

米国金利上昇

米国当局によるインフレ抑圧のための政策金利引き上げが、住宅ローンや購買心理に影響する懸念から、米国の不動産市況の先行き不透明感が増している。

近年、米国向け住宅用フェンス材の原料として、水に強いとされる日本産スギ丸太の中国向け輸出が増えていた。日本産スギ丸太を中国で製材・加工し、米国へ再輸出するモデルだが、コロナ禍での海上輸送費の高騰とともに、米国不動産市況の低迷から2022年には需要が減少した。また2023年も米国の住宅ローンの高止まりによる影響で需要は戻っていない。

（出所）：木頭雲、木材網、業界関係者へのヒアリング

3 中国における日本産木材の実態（まとめ）
日本国内の課題

今回の調査を通じて、中国向け日本産木材の輸出増には、日本側の課題も浮き彫りとなった。特に丸太の輸出余力、港湾キャパシティや輸送船サイズの問題は、容易に解決できない。また輸出前の分別なしのばら積み輸送は、中国側の不満も強く、日本産木材を敬遠する遠因にもなっている。建材規格（サイズ）の違いも、輸出増に向けて障害となっている。

港湾インフラ

日本の港は積荷の取扱キャパシティや燻蒸などのインフラが不足しており、コンスタントに大量の丸太を集荷・出荷できる能力を有するニュージーランドなどと競争できない。

日本から中国向け丸太輸出で規模の大きい鹿児島志布志港も、現状の丸太輸出量50万㎥を100万㎥にするのは、港のキャパの問題もあり「不可能」と関係者はいう。

輸送船のサイズ

日本からの輸入について、輸送船の積載量が少ないのも、コスト競争力が劣る要因の一つと見られている。ニュージーランドなど他の競合国では積載量が30,000～40,000㎥サイズの輸送船を利用しているが、日本は一般的に3,000㎥、大きくて7,000～8,000㎥が限界となっている。

またヒノキなどは量も多くないため、バルクではなくコンテナで中国へ運んでいるケースもある。

輸出前の分別なし

日本から中国へ輸出する丸太は、規格（長さ、径級）ごとに分別することなく、ばら積みの状態で船で運ばれている。丸太分別のための人件費などのコストが、中国の方が圧倒的に安いためで、中国側で輸入業者やディストリビューターが仕分けし、製材加工企業などが買付している。

しかし、他の競合国からの丸太は輸出前に規格ごとに分別されて中国に到着していることから、日本産丸太指定の注文でなければ、こうした仕分け作業が省けるため、ニュージーランド産など代替できる丸太を好んで選択していることが、今回のヒアリング調査からわかった。

丸太の調達

輸出向け丸太は、日本の商社が各地の森林組合経由で調達している。基本、指定の港まで運んでもらい、船に積んでそのまま中国へと輸送している。丸太が痛んでいたとしても、伐採や保管の状況が確認できないため、結果として日本産丸太の信用低下にも繋がりかねない。

他の競合国は丸太をバーコードで管理し、いつ誰が伐採したのか確認できる。丸太輸出促進のためにも、丸太のトレーサビリティーの確立も必要となってくる。

また丸太の量を集められれば価格は安くなるかもしれないが、日本では量を集めることがそもそも難しく、かつ集めようとすると日本国内の輸送費がかかるため、結果価格が高くなってしまう。小ロットの需要に対応していくしかないのが実状となっている。

> 「日本産木材は伐採後、陸路で港まで運ばれることが多く、長さ3～4mが日本国内での輸送に安全かつ運びやすい規格といえる。もし長さがこれを超えると、木材をヘリコプター等で運ぶ必要性も生じ、コストがかかってしまう」
>
> --靖江中林

建材規格（サイズ）の違い

フローリング材など、日本では「三尺六尺」（91cm×182cm）のサイズが主流となっている。これはちょうど畳一条分のサイズで、これを採用しているのは日本と台湾のみとなっている。

しかし、海外では中国含め「四尺八尺」（122cm×243cm）が主流となっており、日本でMDFやパーティクルボードなどを「四尺八尺」で作ろうとすると特注サイズとなり値段が上がる。

日本では「三尺六尺」が大量生産され、値段も安くなっており、なおかつ昨今の円安基調で中国国内での安さが際立つ状況ではあるが、規格が異なるために売れ行きは芳しくない。

（出所）業界関係者へのヒアリング

4 中国における日本産木材の実態（まとめ）
流通

中国で流通する日本産スギは、建築・土木や梱包・パレットなどが主な用途のため、C級材など低質材がメインとなっている。価格変動も激しく、価格面で競合となるニュージーランド産と比べて競争力に劣る。中国では木材を扱う港周辺に製材加工工場が集まっており、特に日本産丸太のほとんどが江蘇省・太倉港で陸揚げされている。製材の中国向け輸出は、中国国内での人件費含めた加工コスト面で、太刀打ちできないのが現状となっている。

中国で流通する日本産木材は低質材がメイン

日本からの輸入丸太は、低価格のC級材がほとんどで、ニュージーランド産との価格競争となっている。米国向け住宅フェンスにB級材も使われているが、コンクリート固定のための型枠や梱包・パレットなどの用途には価格重視のC級材が選ばれている。

変動が激しい丸太価格

今回のヒアリング調査から、丸太の輸出は博打の要素が強く、100～150米ドル（CIF価格）で毎月変動するため出荷計画を立てづらいという声もあった。丸太価格は、10年ほど前には中国着のCIF価格で80～90米ドルだったが、数年前に最も高い時は190米ドルまで上昇し、2022年後半には110米ドル程度に落ち着いている。

ヒアリングによると、日本産スギはコストパフォーマンスに劣っており、断面寸法22～28cmの価格が断面寸法30～38cmのニュージーランド産ラジアータパインとほぼ同程度となっている。市場流通価格も日本産丸太はニュージーランド産より1㎥当たり100～200元割高となっている。

港の周辺に木材加工企業が集積

中国では江蘇省の太倉、張家港、連雲港、山東省の青島、煙台、日照など木材を陸揚げする港の周辺に貿易商社や製材加工企業が事務所を構え、加工工場なども隣接している。貿易商社が輸入した丸太は、加工工場で製材に加工され、そこから木材建材市場や不動産開発会社へ出荷されている。

日本からの丸太のほとんどが陸揚げされる江蘇省の太倉港も、周辺に貿易商社や製材加工工場が集まっているが、近年は地元当局が環境規制を強化しているため、製材加工企業は揚州や鎮江など江蘇省内の北方の都市へ移転しつつある。

製材の輸出には高いハードル

日本から中国向けの製材輸出は、微々たる量となっている。中国のほうが、製材加工コストが圧倒的に安いという理由もあり、価格面で勝負になっていないのが現状となっている。

またカナダなどに大規模な製造加工工場があり、少ない人数で大量の製材を産出しており、コストも安い。また日本産スギは柔らかいため、北米産に比べると建築用途としての優位性はない。

集成材等に加工したものは価格も上がるため、日本で製材加工して中国に輸出するというモデルを成り立たせるためには丁寧な現場調査と正しい現状把握に基づく戦略的な対応が必要。

（出所）業界関係者へのヒアリング

5 中国における日本産木材の実態（まとめ）
日本産丸太の用途

日本からの中国向け輸出丸太の多くがスギとなっている。日本産スギは水に強いという特徴から、米国向け住宅フェンス材として利用されているが、建築・土木、輸送などの用途では、割安なニュージーランドなど他国産との激しい競争にさらされている。またヒノキも中国国内での需要は限られており、中国で加工した後、ほとんどが韓国や台湾などに再輸出されている。

建築資材

日本産スギは高層ビルなどのコンクリートを固めるための型枠パネルや、型枠を支えるための添え木、土木工事の杭や角材として利用され、基本、使い終わったら破棄される。特に土木工事の杭や角材はどんな木材でも構わないため、最も安価な木材が選ばれるケースが多い。

近年、大手不動産開発会社はコンクリートの型枠に木材ではなくアルミを利用するケースも増えている。不動産市況の低迷とともに、日本産スギの輸出には下方圧力が強まっている。

米国向け住宅フェンス材

日本産スギは水に強い性質から、米国の戸建て住宅間のフェンスやエクステリア、外壁、テラスなどに使われており、ロシアやニュージーランド産とは異なる用途となっている。

日本産輸入スギの6～7割くらいをこのフェンス材需要が占めていると回答したヒアリング対象企業もあったが、2022年は米国の住宅需要落ち込みや海上輸送費高騰などを背景に、米国向け輸出が急減。また2023年も米国の住宅ローンの高止まりによる影響で需要は戻っていない。

梱包・パレット

日本産スギは輸送梱包材やパレットなどにも利用されている。ヒアリングによると、中国内の日本企業から日本産木材指定で輸送梱包を製造するよう要求されるケースもあるようだが、基本、コスト重視で他国産の木材と競合になっている。

家具（ヒノキ）

中国では家具用途として、ヒノキやスギなど針葉樹のニーズは少ない。特にヒノキは節が多いので、家具としては敬遠されており、オークやナラなどの広葉樹が、きれいな木目が入っていることから好まれている。

一方で韓国では、ヒノキの香りにリラックス効果があるということで人気となっており、ヒノキカフェなども流行っている。日本産ヒノキを中国に輸入し加工してから、多くは韓国向け（一部台湾向け）に再輸出するパターンがほとんどとなっている。

中国国内では、こうしたヒノキの効果はまだ知られておらず、逆に香りを敬遠する消費者も存在する。ヒノキを求めるニーズは、日本の和室に精通したごく少数の消費者に限られている。

（出所）業界関係者へのヒアリング

6 中国における日本産木材の実態（まとめ）
マーケティング・戦略①

中国で日本産木材が使われる可能性の高い消費市場として、マンションや戸建て住宅が考えられるが、市場のニーズ面からは厳しい現実となっている。ごく一部の消費者から和室や日本式内装、フローリング材などの需要があるが、こうしたニーズはあくまでも一部であり、広がってはいない。

マンション

中国のマンションは以前は「スケルトン」（構造体）の状態から自分好みのインフィル（間仕切りや設備）で内装するのが主流であり、フローリング材やドアなどを建材デパート等で購入していた。

しかし現在は、内装済みの新築マンションが主流。また上海や北京などでは新築マンションがほぼないのが実状のため、内装建材は9割以上がリフォーム需要となっている。

フローリング材

中国ではシックハウスや接着剤の匂いを敬遠して、内装工事が終わってから半年ほど放置しておくケースが多い。新築ですぐに住める日本の内装に安心感を抱いており、ホルムアルデヒド基準の「F☆☆☆☆（エフフォースター）」を満たす日本品質のフローリング材を求める富裕層や子供のいる家庭も一部存在する。

しかし近年は、中国国内メーカーの製造レベルが上昇し、ほぼ同じような品質で作れるようになっており、価格競争に巻き込まれつつある。

戸建て住宅

中国では土地を有効利用するため、条件のいい立地ではマンション建設が優先された。その結果、戸建て住宅向けに残っている土地は、郊外や農村のみであり、日本式木造住宅のニーズはほぼない。

2018年に中国でスギやヒノキが構造材として利用可能となったが、日本からプレカットされた木材の輸入（輸送）コストが建築費用に上乗せされる。

従来のレンガとコンクリートで建てるほうがコストを抑えられ、かつ工期もはやいため、木造住宅を選ぶ消費者は多くない。

中国では、木材建築の構造材として使用されるためには「木構造設計規範」に明記される必要がある。日本産の木材については2018年の改定によりスギ、ヒノキ、カラマツの使用が可能となった。

http://www.ccsn.org.cn/Zbbz/Show.aspx?Guid=d8a5898f-9991-4785-bd2d-0f54e08eda5d

（出所）業界関係者へのヒアリング

7 中国における日本産木材の実態（まとめ）
マーケティング・戦略②

中国で日本産木材が使われる可能性の高い消費市場として、マンションや戸建て住宅が考えられるが、市場のニーズ面からは厳しい現実となっている。ごく一部の消費者から和室や日本式内装、フローリング材などの需要があるが、こうしたニーズはあくまでも一部であり、広がってはいない。

日本式内装（水回り）

ここ２～3年、水回りを中心に居住空間を分離する日本式内装に注目が集まっている。中国ではトイレ、洗面所、バスが一体となっているが、それらが分かれている日本式のほうが使いやすいと感じているようだ。

また上海や北京、広東省など所得水準が高い都市・地域を中心に、間取りを変更してユニットバスを入れる中国人も増えつつある。日本に旅行に行ったり、インターネットやSNSなどから日本の内装を調べて問い合わせする中国人もいる。

日本式内装（和室）

中国では、畳があれば「和室」だという認識。日本のアニメや映画で和室を見たから、日本に旅行したときに旅館で体験して気に入ったから、といった理由で、たとえば2LDK程度のマンション内の一部を改装して和室仕様に作り替える等のニーズがわずかではあるが確実に存在する。北京の住宅展示場には和室仕様のモデルも複数展示されている。コロナのときには中国でもいわゆる“巣ごもり需要”で部屋の一部を改装する動きがあり、「和室」への改装需要も見られた。ただし、不動産産業全体の落ち込みから、新築物件の建設だけでなく、リフォームに掛ける予算も減少傾向にあり、仕様は和室だが中国産材を採用する、という例も多い。

「身の回り」ニーズ増

日本から中国向け輸出のうち、食卓・台所用品は、2012年の434千ドルから2022年には5,353千ドルに、また装飾ケースなどは、同じく2012年の272千ドルから2022年には5,949千ドルにまで伸びている。

中国では、日本のような住宅の構造用材向けの需要が少なく、規模拡大には難しさがあるが、こうした身の回りの商品が市場をつかみはじめているとも見て取れる。日本製品の品質やデザインの良さを求める中国人のニーズも、こうした結果につながっていると推察される。

（出所）業界関係者へのヒアリング

8 中国における日本産木材の実態（まとめ）
マーケティング・戦略③

中国向け日本産木材の輸出を増やすためのマーケティング戦略として、「国潮」、「下沈市場」、「高齢化」がキーワードとなり得る。特に高齢化は、日本企業が得意とする介護や養老といった分野で先行しており、中国人の間でもそのような認識が強い。日本のきめ細かなニーズを察知して開発した製品を、次ページのネット・SNS戦略を活用しながら、「国潮」や「下沈市場」に対してアピールしていくべきだろう。

「国潮」（愛国）トレンド

中国では、良い（高級な）木材製品はドイツなどヨーロッパ製といったイメージが根強く残っている。また最近の若者は、中国で「国潮」と呼ばれる愛国心を背景とした中国国産品やブランドを指向する傾向が強くなっている。

今後の消費の主力層となる若者をターゲットに、地場企業とのコラボや情報発信など「国潮」をテーマとした取り組みも検討していくべきだろう。

「下沈」（地方）市場の富裕層開拓

今回のヒアリング調査から、フローリング材や高価な部類の建材が、内陸のほうで意外にもよく売れているという声もあった。

内陸のなかでも貴州省が、一番値段が高く売れるという日系建材メーカーもおり、値段が高いイコール良いモノというイメージが根強く残っているとも分析できる（ちなみに上海が一番値段にシビアといわれている）。

中国で「下沈」と呼ばれる地方都市の富裕層をターゲットに、販売・ディストリビューター体制を整備することも検討に値する。

高齢化に伴う新規需要

高齢化が急速に進む中国だが、中国人は、要介護が重度ではない限り、なるべく自宅で暮らしたいと考えている。そうした中、日系の建材メーカーは、洗い場とお風呂が分かれている日本式内装のニーズが増えると見込んでいる。

また高齢化に伴い、高機能商品が注目を集めている。車椅子スペースが充分確保できる引き戸やドアがかんたんに外せる金具などへの関心が高まっている。

開口を大きく取れる、車椅子にも便利なトイレなど、自宅介護しながら、質の高い暮らしも実現する養老専門マンションの開発会社などとの接点を増やすべきだろう。

（出所）業界関係者へのヒアリング

8 中国における日本産木材の実態（まとめ）
マーケティング・戦略④

中国では消費のオンライン化が進んでおり、内装建材や家具なども天猫（Tモール）や京東（JDドットコム）などのEC（ネット通販）だけでなく、SNSやライブコマースなどから実際に購入するようになってきている。特にリアル店舗に客が集まらなくなった中国消費現場では、いかに微信（Wechat）や小紅書（RED）、抖音（TikTok）などのSNSを使って情報発信し、顧客との接点を創出するかが、どの産業・企業にとっても課題となっている。ネットからリアルへと誘導する販売戦略が木材業界にも求められる。

ECからリアルへと誘導

中国では、EC（ネット通販）やデリバリーが普及しており、週末でも生鮮スーパーにほとんど客が入っておらず、リアルの店舗に足を運ぶのは年配者のみとなっている。

そのため、家具や建材なども天猫（Tモール）や京東（JDドットコム）など大手ECサイトに出店して顧客接点を増やすしかない。

しかしネットでは価格比較が容易なため、価格が安くないと選ばれない。このため、安価の目玉商品を宣伝して興味を引き、最終的に近くのリアル店舗に誘導しているヒアリング先企業もあった。

中国で「新小売」と呼ばれる、オフラインとオンラインを有効的に融合させるオムニチャネル戦略が、家具や建材業界でも求められている。

SNSによるプロモーション

中国での販路開拓策として展示会への出展が挙げられるが、あくまでもディストリビューター探しがメインであり、多くの出展費がかかる割には効率も悪く、費用対効果の面から出展を取りやめたといった声もあった。

一方で、微信（Wechat）や小紅書（RED）、抖音（TikTok）などのSNSの活用は有意義で、日本製の建材を取り扱うチャットグループなどで紹介してもらうのも宣伝効果が高いと見ている。TikTok上で店舗から動画配信している代理店は、システムキッチンなどを販売した実績が出ている。

中国で「90後」や「00後」と呼ばれる20～30代の若い世代だけでなく、中年層にも広かるSNSユーザー層をターゲットに、スマホ上のショールームで製品や建材などを疑似体験してもらい、最終的にはオフラインへと誘導させる戦略が必要とされている。

> 「中国で店舗（代理店）がない都市から注文が入った。施工はどうすべきか…と悩んでいたが、すでに現地で大工を用意していた。リアル店舗がなくてもネットで売れる実態を目の当たりにした」
>
> --日系建材メーカー

（出所）業界関係者へのヒアリング

参考資料：
中国における木材輸入状況分析（税関データ）
（2022年度JETRO調査結果「中国における木材市場関連調査」から抜粋）

■ **丸太**：

- マツ（HSコード：440321 / 440322）
- 他の針葉樹（スギ・ヒノキ含む）
  （HSコード：440325 / 440326）

■ **製材**：

- マツ（HSコード：440711）
- スギ（HSコード：440712）
- 他の針葉樹（ヒノキ含む）（HSコード：440719）

■ **単板**：

- 針葉樹（HSコード：440810）

1 マツ（≥15cm）丸太輸入
国・地域別輸入額シェアおよび平均輸入価格（HSコード：440321）

- **輸入量および輸入額**：2021年末時点の中国の断面寸法15cm以上のマツ丸太の輸入額および輸入量はそれぞれ41億7,800万米ドルと2,275万9,500トン。
- **平均価格**：中国税関の統計データによると、2021年に中国が輸入した断面寸法15cm以上のマツ丸太価格は、111.8米ドル/トン（南アフリカ）から321.5米ドル/トン（カナダ）まで幅がある。平均価格は183.6米ドル/トン。
- **主要用途**：マツ丸太は中国において、建設工事用板材、家具、床板、インテリア、包装材料、木製複合材料の生産などに幅広く用いられている。（業界関係者へのヒアリング）
- 主要輸入国：中国が輸入しているマツ丸太の主要供給国はニュージーランドで、輸入総額の約75.8%を占めている。その他はウルグアイ、米国、ロシア、ブラジルなど。

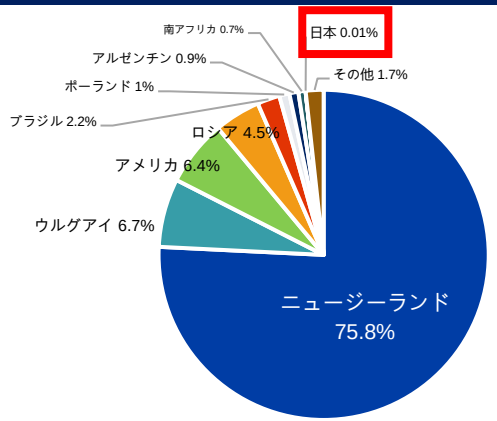
2021年　輸入データ

HS Code: 440321
※松（マツ属のもの）のもの（横断面の最小寸法が15cm以上のものに限る）

国・地域	輸入額 (千米ドル)	輸入量 (トン)	平均価格 (米ドル/トン)
ニュージーランド	3,166,357	15,375,731	205.9
ウルグアイ	280,484	2,038,577	137.6
米国	269,456	1,987,333	135.6
ロシア	189,301	1,425,262	132.8
ブラジル	92,032	697,916	131.9
ポーランド	41,408	236,056	175.4
アルゼンチン	36,972	294,078	125.7
南アフリカ	29,247	261,698	111.8
日本	242	1,577	153.5
その他	72,948	441,309	165.3
合計/平均	**4,178,446**	**22,759,536**	**183.6**

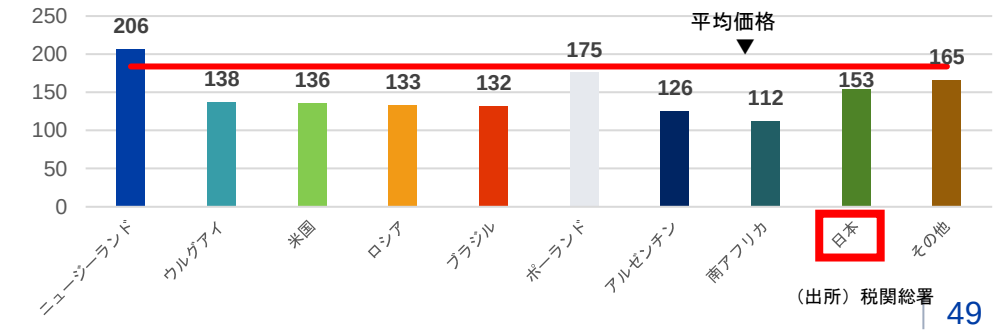
（出所）税関総署　※上記CIF（Cost Insurance and Freight=運賃保険料込み条件）価格

2021年　国・地域別輸入額シェア



（出所）税関総署

2021年　国・地域別平均輸入価格



（出所）税関総署

2 マツ(≥15cm)丸太輸入
主要輸入元国・地域別輸入額および平均価格推移(HSコード:440321)

- **主要輸入国**：中国税関のデータによると、断面寸法15cm以上のマツ丸太の2021年の輸入額トップ3はニュージーランド、ウルグアイ、米国の順。2017年から2021年にかけ、中国の日本産マツの輸入量、輸入額はいずれも増加傾向にあったが、全体量は依然として少ない。
- **平均価格**：日本産マツの輸入量は少なく、平均価格の変動も著しい。近年、ニュージーランド産マツの輸入量および平均価格はどちらも上昇傾向にある。その理由は以下のとおり。
  - ニュージーランドは土壌が肥沃で降雨もバランスがとれており、産出されるマツの質が高い。また人工林のほとんどが森林管理委員会(FSC)や国際森林認証制度(PEFC)などの第三者認証を取得している。
  - ニュージーランド産マツは安定性、加工性、頑健性に優れ、加工した製品も安定的で変形しにくい。（業界関係者へのヒアリング）

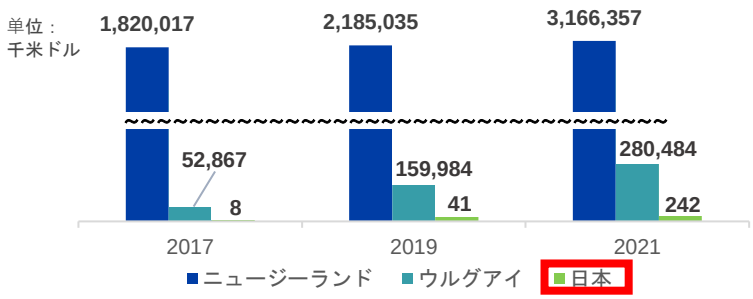
主要輸入元国・地域別データ
HS Code: 440321　※松（マツ属のもの）のもの（横断面の最小寸法が15cm以上のものに限る）

年	2017			2019			2021		
国・地域	輸入額(千米ドル)	輸入量(トン)	平均価格(米ドル/トン)	輸入額(千米ドル)	輸入量(トン)	平均価格(米ドル/トン)	輸入額(千米ドル)	輸入量(トン)	平均価格(米ドル/トン)
ニュージーランド	1,820,017	11,011,849	165.3	2,185,035	13,261,138	164.8	3,166,357	15,375,731	205.9
ウルグアイ	52,867	439,897	120.2	159,984	1,262,010	126.8	280,484	2,038,577	137.6
日本	8	16	500	41	94	436.2	242	1,577	153.5
合計	**3,453,031**	**22,100,547**	**156.2**	**3,596,324**	**23,833,395**	**150.9**	**4,178,446**	**22,759,536**	**183.6**

（出所）税関総署

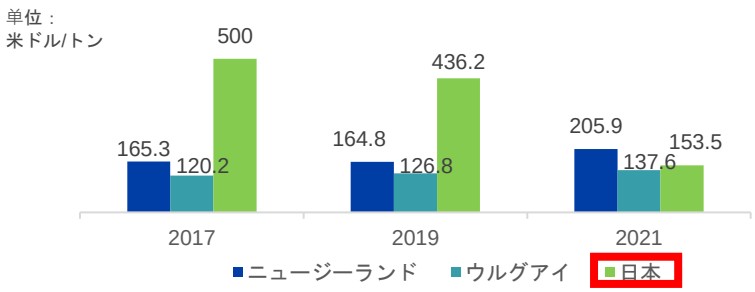
※上記CIF（Cost Insurance and Freight=運賃保険料込み条件）価格

2017-2021年　輸入額推移



（出所）税関総署

2017-2021年　平均価格推移



（出所）税関総署

3 マツ（≥15cm）丸太
中国における主要用途（HSコード：440321）

- **主要用途**：日本産マツの輸入量は少ない。中国では主にパレットや家具などに使用されている。（業界関係者へのヒアリング）

日本産マツ丸太

加工後の日本産マツ製材

パレット

家具

（出所）作成者撮影、ヒアリング対象先企業提供

4 マツ（<15cm）丸太輸入
国・地域別輸入額シェアおよび平均輸入価格（HSコード：440322）

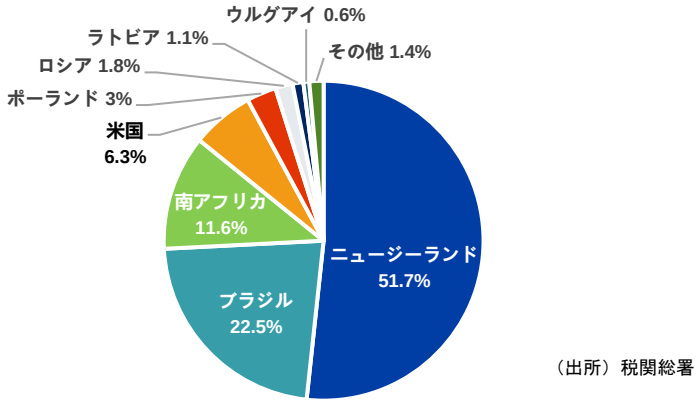
- **輸入量および輸入額**：2021年末時点の中国の断面寸法15cm以下のマツ丸太の輸入額および輸入量はそれぞれ6,300万米ドルおよび43万1,300トン。
- **平均価格**：断面寸法の小さいマツ丸太の価格は、断面寸法の大きいマツ丸太に比べ大幅に低い。2021年時点の輸入価格は94.5米ドル/トン（オーストラリア）から277.6米ドル/トン（カナダ）までと幅がある。平均価格は145.9米ドル/トン。
- **主要用途**：建築、電柱、枕木、鉱柱、橋、農具、器具、家具、包装材、合板、製紙などに幅広く使用されている。（業界関係者へのヒアリング）
- **主要輸入国**：ニュージーランドが主な供給国であり、全体の約51.7%を占めている。以下、ブラジル、南アフリカ、米国と続く。税関データによると、現在中国は、断面寸法の小さいマツ丸太を日本から輸入していない。

2021年　輸入データ

HS Code: 440322
松（マツ属のもの）のその他のもの（横断面の最小寸法<15cm）

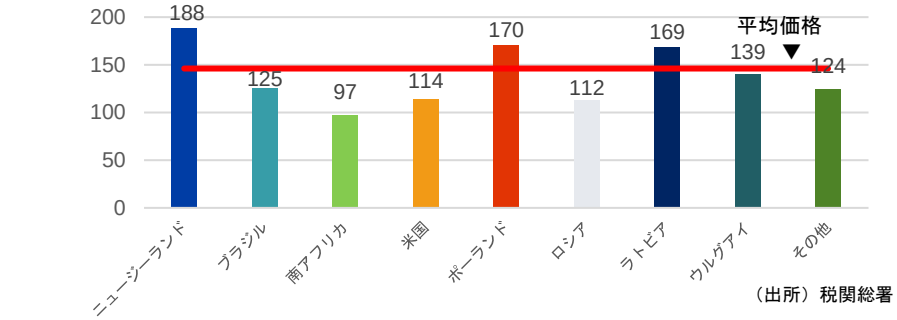
国・地域	輸入額 (千米ドル)	輸入量 (トン)	平均価格 (米ドル/トン)
ニュージーランド	32,536	172,825	188.26
ブラジル	14,154	113,089	125.16
南アフリカ	7,320	75,603	96.82
米国	3,970	34,886	113.79
ポーランド	1,885	11,075	170.17
ロシア	1,104	9,816	112.47
ラトビア	683	4,048	168.72
ウルグアイ	376	2,696	139.40
日本	0	0	0
その他	902	7,254	124.29
合計/平均	**62,928**	**431,291**	**145.91**

2021年　国・地域別輸入額シェア



（出所）税関総署

2021年　国・地域別平均輸入価格



（出所）税関総署

（出所）税関総署　※上記CIF（Cost Insurance and Freight=運賃保険料込み条件）価格

5 マツ（<15cm）丸太輸入

主要輸入元国・地域別輸入額および平均価格推移（HSコード：440322）

- **主要輸入国**：中国税関のデータによると、断面寸法15cm未満のマツ丸太の2021年の輸入額トップ3はニュージーランド、ブラジル、南アフリカの順。なかでもニュージーランドからの木材輸入は、輸入額が2,000～3,000万米ドルと安定的に推移している。一方、ブラジルと南アフリカは比較的変動が大きい。
- **平均価格**：2021年には新型コロナの影響を受け、世界中の木材生産が減少したこともあり、価格が大幅に上昇。平均価格もやや変動的となっている。（業界関係者へのヒアリング）

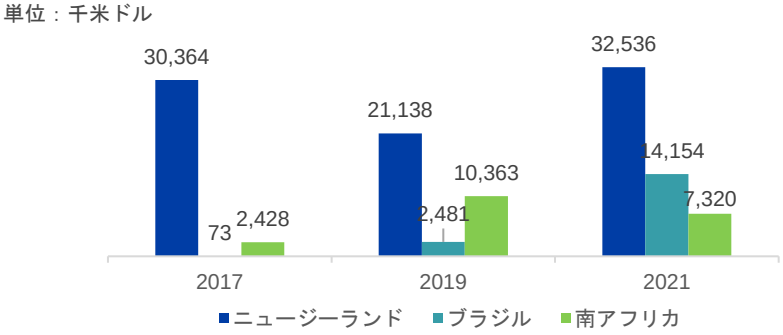
主要輸入元国・地域別データ
HS Code: 440322 松（マツ属のもの）のその他のもの （横断面の最小寸法<15cm）

年	2017			2019			2021		
国・地域	輸入額 (千米ドル)	輸入量 (トン)	平均価格 (米ドル/トン)	輸入額 (千米ドル)	輸入量 (トン)	平均価格 (米ドル/トン)	輸入額 (千米ドル)	輸入量 (トン)	平均価格 (米ドル/トン)
ニュージーランド	30,364	194,378	156.2	21,138	138,761	152.3	32,536	172,825	188.3
ブラジル	73	623	117.8	2,481	29,235	84.9	14,154	113,089	125.2
南アフリカ	2,428	30,448	79.7	10,363	119,092	87.0	7,320	75,603	96.8
合計	**182,328**	**1,347,497**	**135.3**	**166,595**	**1,365,243**	**122.0**	**62,928**	**431,291**	**145.9**

（出所）税関総署

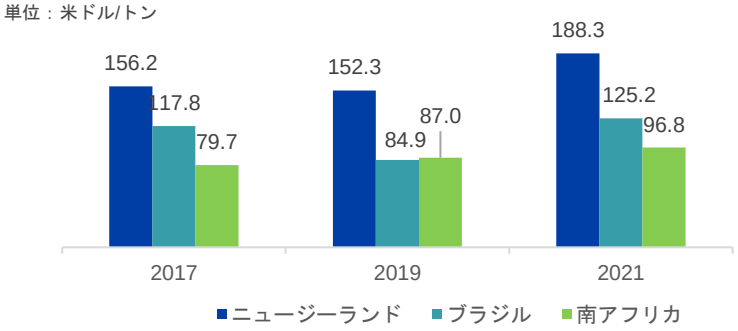
※上記CIF （Cost Insurance and Freight=運賃保険料込み条件）価格

2017-2021年　輸入額推移



（出所）税関総署

2017-2021年　平均価格推移



（出所）税関総署

6 他の針葉樹（スギ・ヒノキ含む）（≥15cm）丸太輸入
国・地域別輸入額シェアおよび平均輸入価格（HSコード：440325）

- **輸入量および輸入額**: 2021年に断面寸法15cm以上の丸太（他の針葉樹）の輸入額および輸入量は、それぞれ7億3,940万米ドルと315万トン。
- **平均価格:** 2021年に中国が輸入した断面寸法15cm以上の丸太（他の針葉樹）の価格は157米ドル/トン（ロシア）から342.2米ドル/トン（メキシコ）と幅がある。平均価格は234.7米ドル/トン。
- **主要用途**：他の針葉樹にはスギ、ヒノキのほかに、雲杉、ダグラスファー、マホガニーなどが含まれ、主に古建築、インテリア、家具、フェンスなどに使われている。（業界関係者へのヒアリング）
- 主要輸入国：カナダが最も多く、全体の約27.5%を占める。以下、米国、日本、ニュージーランド、ロシアの順。

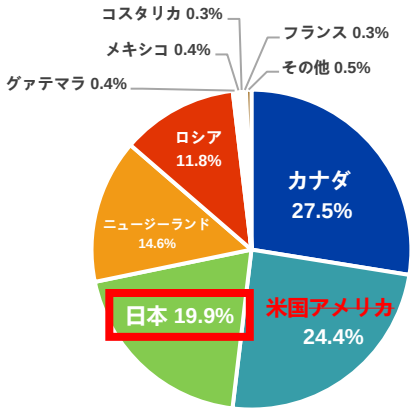
2021年　輸入データ

HS Code: 440325
その他のもの（スギ、ヒノキ、カラマツなど横断面の最小寸法が15cm以上のものに限る）

国・地域	輸入額 (千米ドル)	輸入量 (トン)	平均価格 (米ドル/トン)
カナダ	203,580	676,377	301
米国	180,144	600,574	300
日本	146,886	796,535	184.4
ニュージーランド	107,811	471,350	228.7
ロシア	87,112	554,731	157
グァテマラ	2,820	9,245	305
メキシコ	2,695	7,875	342.2
コスタリカ	2,381	9,301	256
フランス	2,067	7,959	259.7
その他	3,908	16,405	238.2
合計/平均	**739,404**	**3,150,352**	**234.7**

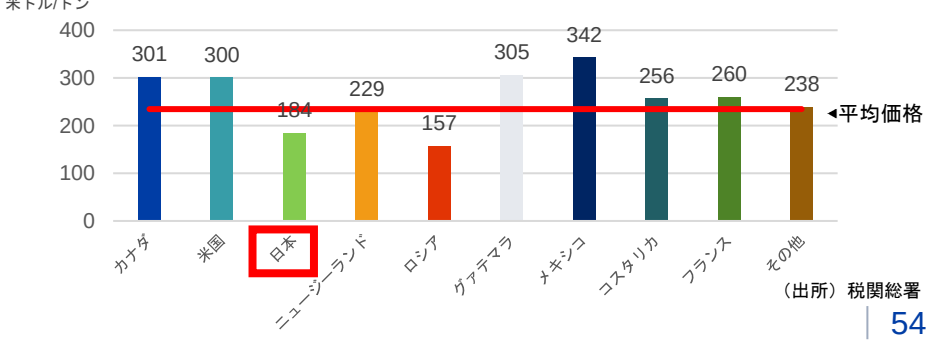
（出所）税関総署　※上記CIF （Cost Insurance and Freight=運賃保険料込み条件）価格

2021年　国・地域別輸入額シェア



（出所）税関総署

2021年　国・地域別平均輸入価格



（出所）税関総署

7 | 他の針葉樹（スギ・ヒノキ含む）（≥15cm）丸太輸入
主要輸入元国・地域別輸入額および平均価格推移（HSコード：440325）

- **主要輸入国**：中国が輸入した断面寸法15cm以上の丸太（他の針葉樹）の供給国トップ3はカナダ、米国、日本の順。
- **平均価格**：市場平均価格は、210～240米ドル/トンとなっている。うち、カナダ産と米国産の木材は、市場平均価格を上回り、日本産の木材価格は市場平均価格を下回っている。
- **日本産木材は低価格**：日本産の丸太（他の針葉樹）の平均価格は他国産に比べて低い傾向が見られる。ヒアリングによると、日本産丸太は他の海外産と比べて寸法など規格が揃っていないこと、またC級材が中心となっていることから、平均価格が低い傾向にあるという。

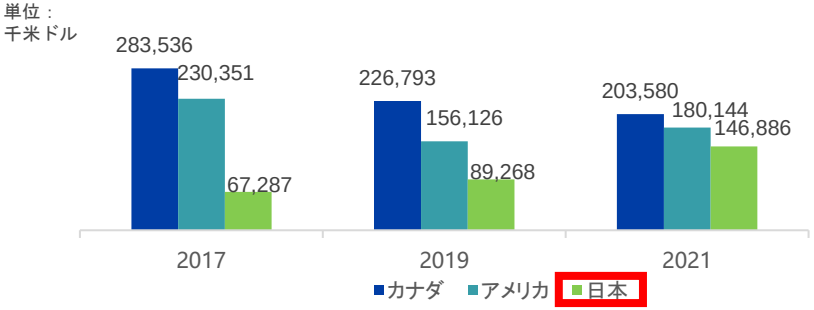
主要輸入元国・地域別データ
HS Code: 440325　その他のもの（スギ、ヒノキ、カラマツなど横断面の最小寸法が15cm以上のものに限る）

年	2017			2019			2021		
国・地域	輸入額 (千米ドル)	輸入量 （トン）	平均価格 (米ドル/トン)	輸入額 (千米ドル)	輸入量 （トン）	平均価格 (米ドル/トン)	輸入額 (千米ドル)	輸入量 （トン）	平均価格 (米ドル/トン)
カナダ	283,536	1,193,361	237.6	226,793	921,870	246	203,580	676,377	301
米国	230,351	955,968	241	156,126	647,321	241.2	180,144	600,574	300
日本	67,287	443,079	151.9	89,268	580930	153.7	146,886	796,535	184.4
総輸入量	**678,152**	**3,243,379**	**209.1**	**534,594**	**2,508,148**	**213.1**	**739,404**	**3,150,352**	**234.7**

（出所）税関総署

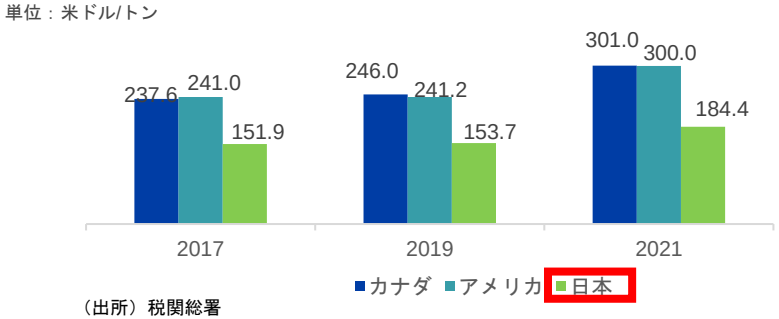
※上記CIF （Cost Insurance and Freight=運賃保険料込み条件）価格

2017-2021年　輸入額推移



（出所）税関総署

2017-2021年　平均価格推移



（出所）税関総署

8 他の針葉樹（スギ・ヒノキ含む）（<15cm）丸太輸入
国・地域別輸入額シェアおよび平均輸入価格（HSコード：440326）

- **輸入量および輸入額**：断面寸法が小さい（15cm以下）丸太（他の針葉樹）は、大きい（15cm以上）丸太（他の針葉樹）と比べて輸入量が少ない。税関のデータによると、2021年の輸入額および輸入量は、それぞれ1億米ドルと54万5,800トン。
- **平均価格**：断面寸法が小さい（15cm以下）丸太（他の針葉樹）の2021年時点の輸入価格は、123.58米ドル/トン（ロシア）から、329.89米ドル/トン（カナダ）と幅がある。平均値は182.73米ドル/トン。日本産の輸入価格は平均よりやや低く、175.67米ドル/トン。
- **主な用途**：建築用材（コンクリート型枠・土木工事）、梱包材、住宅フェンス材など。（業界関係者へのヒアリング）
- **主要輸入国**；日本は主要輸出国であり、全体の約45.2%を占める。以下、ロシア、カナダ、米国、ニュージーランド、オーストラリアの順。

2021年　輸入データ

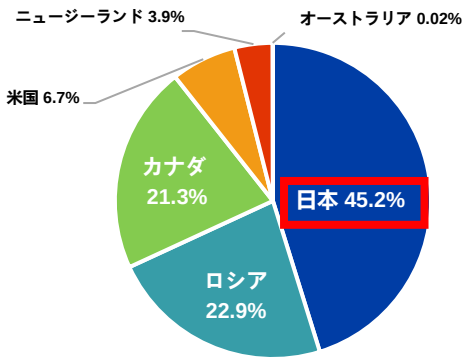
HS Code: 440326
その他のもの（スギ、ヒノキ、カラマツなど。横断面の最小寸法<15cm）

国・地域	輸入額 (千米ドル)	輸入量 (トン)	平均価格 (米ドル/トン)
日本	45,078	256,614	175.7
ロシア	22,859	184,975	123.6
カナダ	21,194	64,245	329.89
米国	6,677	21,267	314.0
ニュージーランド	3,903	18,555	210.4
オーストラリア	19	135	140.7
合計/平均	**99,731**	**545,790**	**182.7**

（出所）税関総署

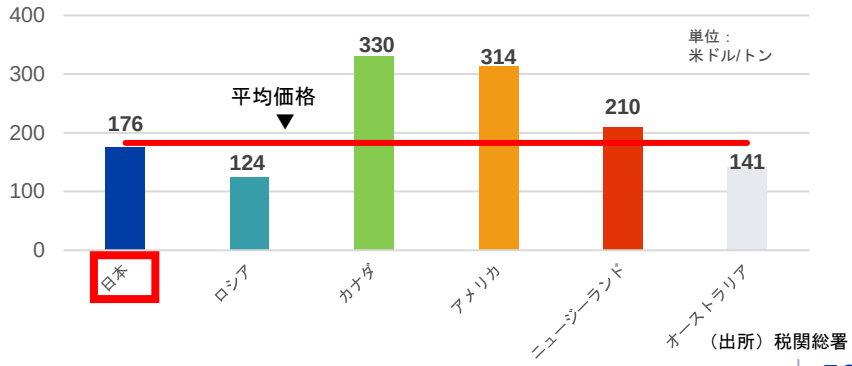
※上記CIF （Cost Insurance and Freight=運賃保険料込み条件）価格

2021年　国・地域別輸入額シェア



（出所）税関総署

2021年　国・地域別平均輸入価格



（出所）税関総署

9 他の針葉樹（スギ・ヒノキ含む）（<15cm）丸太輸入
主要輸入元国・地域別輸入額および平均価格推移（HSコード：440326）

- **主要輸入国**：断面寸法15cm未満の丸太（他の針葉樹）の2021年の輸入額トップ3は日本、ロシア、カナダの順。2019年にはロシアの木材専用鉄道が開通し市場に参入。2021年時点でロシア産の断面寸法の小さい丸太（他の針葉樹）の輸入額は、すでにカナダを抜いて2位に浮上している。
- **平均価格**；断面寸法の小さい丸太（他の針葉樹）の平均価格は全体的に上昇傾向を示している。2019年には平均価格が一度落ち込んだが、日本とカナダの二大輸出国はそれほど影響を受けなかった。
- **輸入量が増加**：2021年、断面寸法の小さい丸太（他の針葉樹）の輸入は大きく増加し、輸入額および輸入量は2019年比でそれぞれ101.7%と77.3%の成長を記録している。輸入量増加の背景として、2021年には世界中がコロナ禍で生産活動が滞るなか、コロナの封じ込めに成功した中国では生産が正常化。家具の生産および輸出が急成長し、針葉樹および広葉樹の需要が増加したことが挙げられる。（業界関係者へのヒアリング）

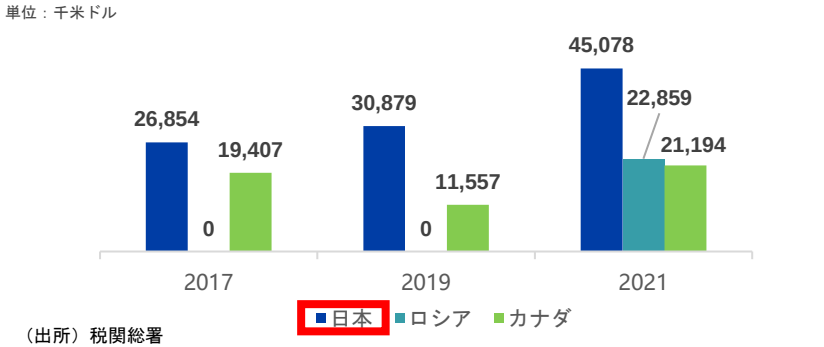
主要輸入元国・地域別データ
HS Code: 440326 その他のもの（スギ、ヒノキ、カラマツなど。横断面の最小寸法<15cm）

年	2017			2019			2021		
国・地域	輸入額 (千米ドル)	輸入量 (トン)	平均価格 (米ドル/トン)	輸入額 (千米ドル)	輸入量 (トン)	平均価格 (米ドル/トン)	輸入額 (千米ドル)	輸入量 (トン)	平均価格 (米ドル/トン)
日本	26,854	188,326	142.6	30,879	209,019	147.8	45,078	256,614	175.7
ロシア	0	0	/	0	0	/	22,859	184,975	123.6
カナダ	19,407	85,106	228.0	11,557	48,205	239.8	21,194	64,245	329.9
合計	**57,520**	**330,559**	**174.0**	**49,437**	**307,851**	**160.6**	**99,731**	**545,790**	**182.7**

（出所）税関総署

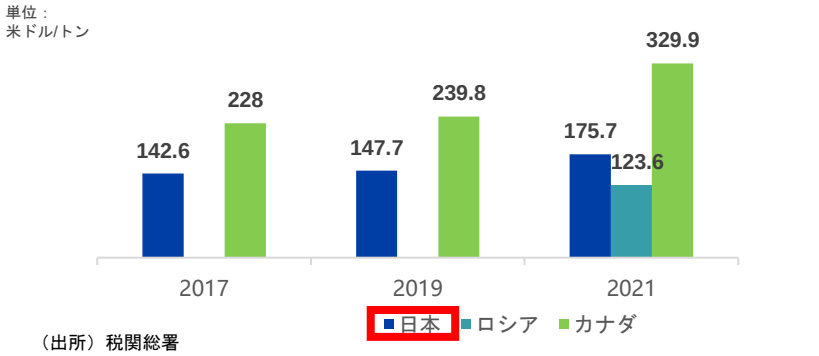
※上記CIF （Cost Insurance and Freight=運賃保険料込み条件）価格

2017-2021年　輸入額推移



（出所）税関総署

2017-2021年　平均価格推移



（出所）税関総署

10 他の針葉樹丸太（スギ・ヒノキ含む）
中国における主要用途（HSコード：440321・440322）

- **主要用途**：中国に輸入される日本産丸太（他の針葉樹）は主にスギとヒノキ。日本産スギ丸太は主に輸送用パレット、木箱用板材、北米向け住宅フェンス材、杭打ち材などに加工されている。ごく一部は家具にも加工されている。日本産ヒノキ丸太の多くは壁板や床板、ヒノキ合板などの板材に加工され、主に韓国（一部台湾）向けに輸出されている。（業界関係者へのヒアリング）

日本産スギ丸太

日本産スギの杭打ち材

日本産スギのパレット用の木材

日本産ヒノキ丸太

日本産ヒノキ板材

日本産ヒノキ板材

（出所）作成者撮影、ヒアリング対象先企業提供

11 マツ（≥6mm）製材輸入
国・地域別輸入額シェアおよび平均輸入価格（HSコード：440711）

- **輸入額/輸入量**：2021年の中国のマツ製材（厚さ6mm以上）の輸入額および輸入量は、それぞれ21億米ドルと569万トン。
- **平均輸入価格**：中国税関のデータによると、2021年の平均輸入価格は196.88米ドル/トン（日本）から、1,960.00米ドル/トン（台湾）まで幅があるが、平均輸入価格は369.30米ドル/トン。
- **主要用途**：家具の製造、楽器、木造家屋建築、内装など。（業界関係者へのヒアリング）
- **主要輸入国**：中国が輸入しているマツ製材の最大の供給国はロシアで全体の約62.8%を占めている。以下、ウクライナ、チリ、ベラルーシ、ブラジルの順。

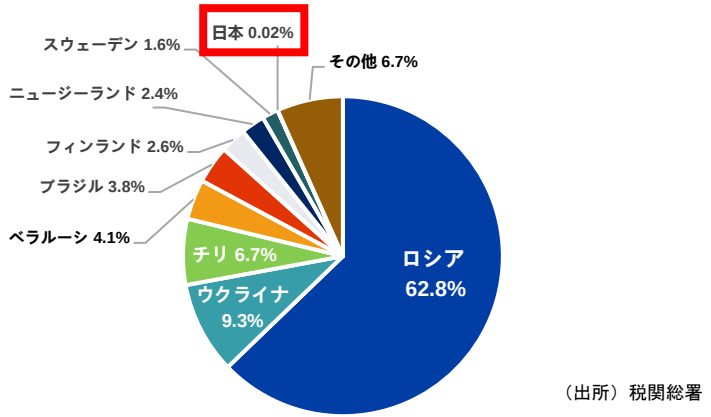
2021年　輸入データ

HS Code: 440711
木材　松（マツ属のもの）のもの・厚さ≥6mm

国・地域	輸入額 (千米ドル)	輸入量 (トン)	平均価格 (米ドル/トン)
ロシア	1,319,196	3,919,289	336.6
ウクライナ	195,370	550,877	354.7
チリ	140,133	251,503	557.2
ベラルーシ	85,202	242,788	350.9
ブラジル	80,488	165,486	486.4
フィンランド	54,498	113,353	480.8
ニュージーランド	50,674	81,393	622.6
スウェーデン	34,257	60,745	564.0
日本	505	2,565	196.9
その他	140,340	300,310	467.3
合計/平均	**2,100,661**	**5,688,308**	**369.3**

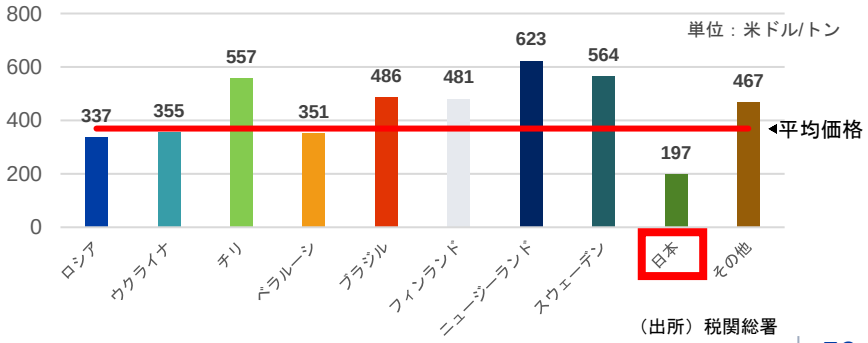
（出所）税関総署　※上記CIF （Cost Insurance and Freight=運賃保険料込み条件）価格

2021年　国・地域別輸入額シェア



（出所）税関総署

2021年　国・地域別平均輸入価格



（出所）税関総署

12 マツ（≥6mm）製材輸入
主要輸入元国・地域別輸入額および平均価格推移（HSコード：440711）

- **主要輸入国**：中国のマツ製材（厚さ6mm以上）の2021年の輸入額トップ3はロシア、ウクライナ、チリの順。輸入量および輸入額は減少傾向にある。2017年以降、ロシアと日本からの製材の輸入量および輸入額は共に大きく減少している。
- **平均価格**：2019年には、マツ製材の市場平均価格、主要供給国の平均価格ともに小幅な減少を記録。2020年以降、マツ製材の市場平均価格は再び上昇傾向となり、2021年の平均価格は2019年比で40.13%上昇している。ただし、日本産のマツ製材の平均価格は市場平均価格を大きく下回っている。

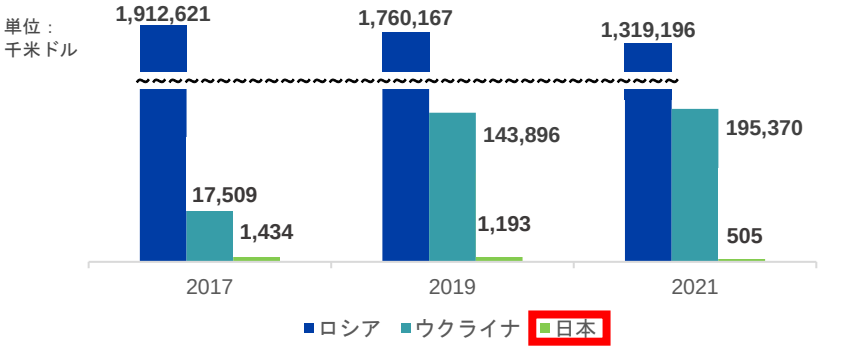
主要輸入元国・地域別データ
HS Code: 440711　木材一松（マツ属のもの）のもの・厚さ≥6mm

年	2017			2019			2021		
国・地域	輸入額 (千米ドル)	輸入量 （トン）	平均価格 (米ドル/トン)	輸入額 (千米ドル)	輸入量 （トン）	平均価格 (米ドル/トン)	輸入額 (千米ドル)	輸入量 （トン）	平均価格 (米ドル/トン)
ロシア	1,912,621	7,708,713	248.11	1,760,167	7,514,775	234.23	1,319,196	3,919,289	336.59
ウクライナ	17,509	58,378	299.93	143,896	511,689	281.22	195,370	550,877	354.65
日本	1,434	7,684	186.62	1,193	7,090	168.27	505	2,565	196.88
合計	**2,638,761**	**9,477,357**	**278.43**	**2,571,552**	**9,757,195**	**263.55**	**2,100,661**	**5,688,308**	**369.30**

（出所）税関総署

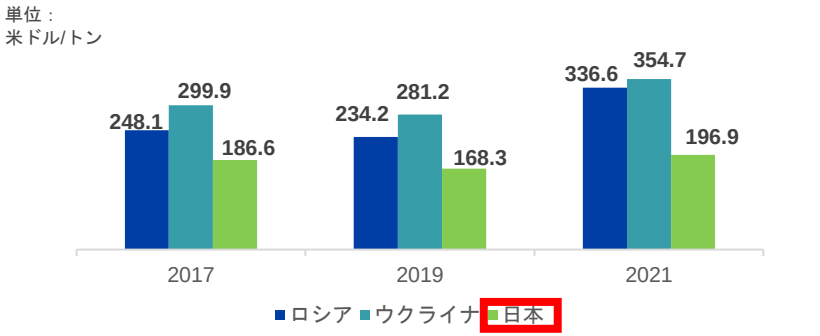
※上記CIF （Cost Insurance and Freight=運賃保険料込み条件）価格

2017-2021年　輸入額推移



（出所）税関総署

2017-2021年　平均価格推移



（出所）税関総署

13 マツ（≥6mm）製材
中国における主要用途（HSコード：440711）

- **主要用途**: 日本産マツの製材の輸入量は少ない。中国におけるマツの製材は主に家具、楽器、内装、木造家屋建築に使用されれている。（業界関係者へのヒアリング）

（出所）作成者撮影、ヒアリング対象先企業提供

14 スギ(≥6mm)製材輸入
国・地域別輸入額シェアおよび平均輸入価格(HSコード:440712)

- **輸入額/輸入量**：2021年末時点の中国のスギ製材（厚さ≥6mm）の輸入額および輸入量はそれぞれ17億6,100万米ドルと432万1,400トン。
- **平均輸入価格**：税関のデータによると、2021年の平均輸入価格は144米ドル/トン（ベトナム）から1,561.2米ドル/トン（台湾）と幅がある。平均価格は407.4米ドル/トン。
- **主要用途**：パレット、輸送用木箱、家具、床板、壁板など。（業界関係者へのヒアリング）
- **主要輸入国**：最大の輸入国はロシアであり、輸入総額の65.8%を占めている。以下、カナダ、フィンランド、ドイツ、スウェーデンなど。

2021年　輸入データ

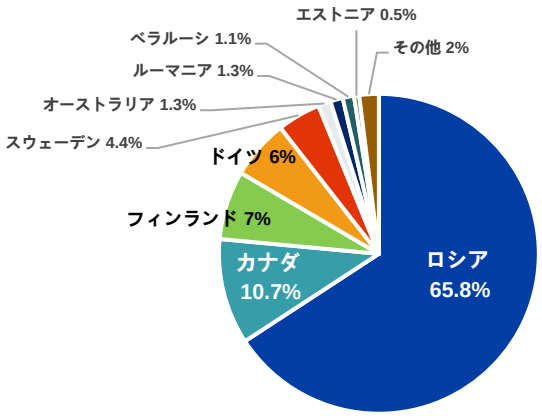
HS Code: 440712
もみ（モミ属のもの）又はとうひ（トウヒ属のもの）のもの 厚さ≥6mm

国・地域	輸入額 (千米ドル)	輸入量 (トン)	平均価格 (米ドル/トン)
ロシア	1,158,385	3,101,641	373.5
カナダ	188,158	422,494	445.4
フィンランド	122,544	214,215	572.1
ドイツ	105,808	223,632	473.13
スウェーデン	77,060	138,181	557.7
オーストラリア	22,495	38,128	590
ルーマニア	22,176	41,584	533.3
ベラルーシ	20,164	53,030	380.2
エストニア	9,183	17,269	531.8
日本	1,171	5,578	210
その他	34,656	71,187	486.9
合計/平均	**1,760,630**	**4,321,361**	**407.4**

※上記CIF （Cost Insurance and Freight=運賃保険料込み条件）価格

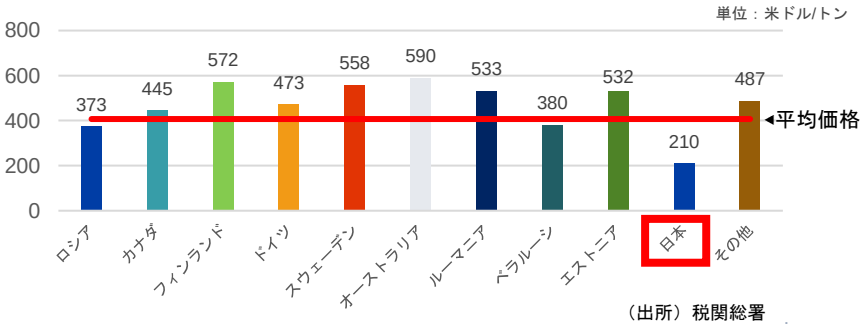
（出所）税関総署

2021年　国・地域別輸入額シェア



（出所）税関総署

2021年　国・地域別平均輸入価格



（出所）税関総署

15 スギ(≥6mm)製材輸入
主要輸入元国・地域別輸入額および平均価格推移(HSコード:440712)

- **主要輸入国**： 2021年時点では、ロシアがスギ製材の最大の供給国であり、輸入額および輸入量はそれぞれ市場全体の65.79%、71.77%を占めている。
- **平均価格**：ロシア、カナダなど主要輸入元国では、2021年にスギ製材の平均価格は全体的に上昇傾向を示している。
- **海外供給減少**：2021年には世界中がコロナ禍で生産活動が滞るなか、中国国内の木材需要は安定的に高い水準を維持していたため、海外から輸入できなくなった製材の代わりに、丸太を輸入して中国国内で製材に加工するニーズが高まり、結果的に海外からの製材輸入量が減少した。（業界関係者へのヒアリング）

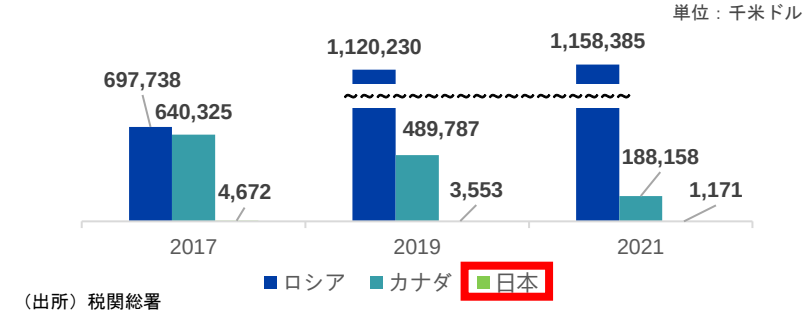
主要輸入元国・地域別データ
HS Code: 440712 もみ（モミ属のもの）又はとうひ（トウヒ属のもの）のもの ・厚さ≥6mm

年	2017			2019			2021		
国・地域	輸入額 (千米ドル)	輸入量 (トン)	平均価格 (米ドル/トン)	輸入額 (千米ドル)	輸入量 (トン)	平均価格 (米ドル/トン)	輸入額 (千米ドル)	輸入量 (トン)	平均価格 (米ドル/トン)
ロシア	697,738	2,363,794	295.2	1,120,230	3,962,429	282.7	1,158,385	3,101,641	373.5
カナダ	640,325	1,640,982	390.2	489,787	1,405,643	348.4	188,158	422,494	445.4
日本	4,672	5,955	784.6	3,553	5,076	699.9	1,171	5,578	210
合計	**1,909,766**	**5,193,734**	**367.7**	**2,109,804**	**6,577,386**	**320.8**	**1,760,630**	**4,321,361**	**407.4**

（出所）税関総署

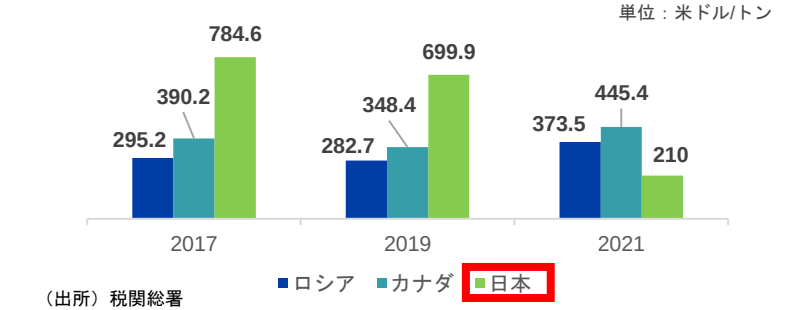
※上記CIF （Cost Insurance and Freight=運賃保険料込み条件）価格

2017-2021年　輸入額推移



（出所）税関総署

2017-2021年　平均価格推移



（出所）税関総署

16 スギ（≥6mm）製材
中国における主要用途（HSコード：440712）

- **主要用途**: 日本からのスギ製材の輸入量は少ない。中国におけるスギ製材は主にフロアリング、壁板、家具、パレットなどに使用されている。（業界関係者へのヒアリング）

フロアリング

壁板

家具

パレット

（出所）作成者撮影、ヒアリング対象先企業提供

17 他の針葉樹（ヒノキ含む）（≥6mm）製材輸入
国・地域別輸入額シェアおよび平均輸入価格（HSコード：440719）

- **輸入額/輸入量**：2021年末時点の中国の製材（他の針葉樹、厚さ≥6mm）の輸入額および輸入量は、それぞれ4億7,500米ドル、192万1,700トン。
- **平均輸入価格**：2021年の輸入価格は192.7米ドル/トン（ロシア）から、1,343.1米ドル/トン（ガーナ）と幅がある。平均輸入価格は247.3米ドル/トン。
- **主要用途**：家具、板材、床板、内装、建築などの業界。（業界関係者へのヒアリング）
- **主要輸入国**：製材（他の針葉樹）の主要輸入国はロシアで、輸入総額の約57.5%を占めている。以下、カナダ、日本、米国、フィンランドの順。

2021年　輸入データ

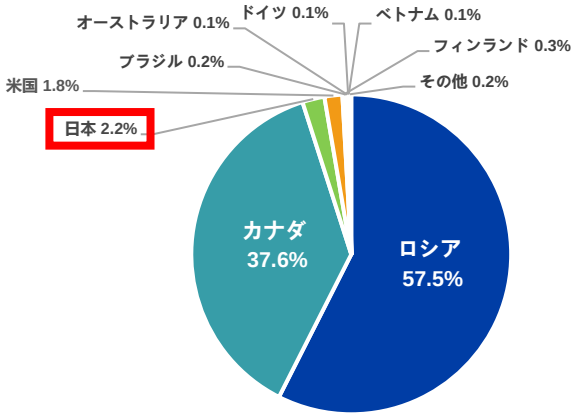
HS Code: 440719　木材ーその他のもの・厚さ≥6mm

国・地域	輸入額 (千米ドル)	輸入量 (トン)	平均価格 (米ドル/トン)
ロシア	273,127	1,417,584	192.7
カナダ	178,713	455,930	392
日本	10,646	26,441	402.6
米国	8,588	12,083	710.8
フィンランド	1,282	2,898	442.3
ブラジル	829	1,800	460.7
オーストラリア	396	576	687.2
ドイツ	339	818	414.1
ベトナム	315	1,380	228.2
その他	1,049	2,205	476
合計/平均	**475,285**	**1,921,717**	**247.3**

（出所）税関総署

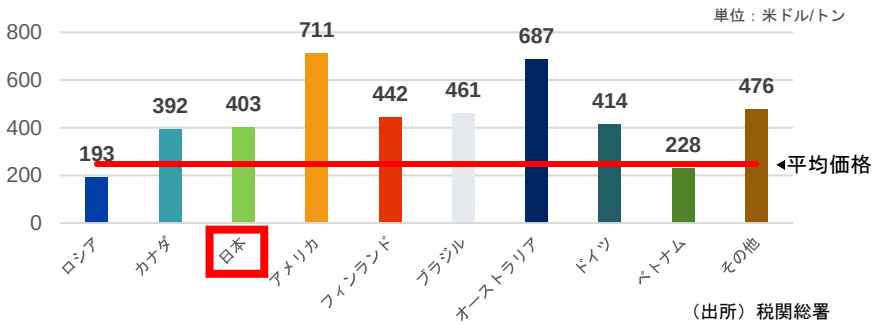
※上記CIF （Cost Insurance and Freight=運賃保険料込み条件）価格

2021年　国・地域別輸入額シェア



（出所）税関総署

2021年　国・地域別平均輸入価格



（出所）税関総署

18 他の針葉樹（ヒノキ含む）（≥6mm）製材輸入
主要輸入元国・地域別輸入額および平均価格推移（HSコード：440719）

- **主要輸入国**：中国の他の針葉樹製材（厚さ6mm以上）の2021年の輸入額トップ3はロシア、カナダ、日本の順。2021年の輸入量および輸入額は2019年比で共に増加傾向を示した。2021年の輸入額は2019年比で98.1%増加、輸入量も136.5%増を記録している。2017～2021年、中国の製材（他の針葉樹）の輸入量および輸入額は比較的変動的だった。
- **平均価格**：2017～2021年、平均輸入価格は減少傾向にあった。但し、主要供給国の1つであるカナダは平均価格が上昇傾向にあり、2021年の平均輸入価格は2019年比で37.1%上昇している。

主要輸入元国・地域別データ
HS Code: 440719　木材ーその他のもの・厚さ≥6mm

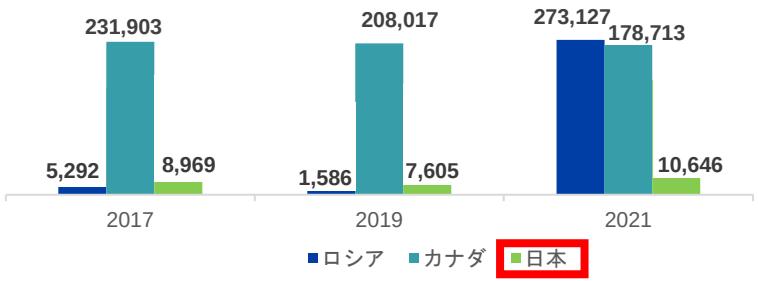
年	2017			2019			2021		
国・地域	輸入額 (千米ドル)	輸入量 (トン)	平均価格 (米ドル/トン)	輸入額 (千米ドル)	輸入量 (トン)	平均価格 (米ドル/トン)	輸入額 (千米ドル)	輸入量 (トン)	平均価格 (米ドル/トン)
ロシア	5,292	17,114	309.2	1,586	6,065	261.5	273,127	1,417,584	192.7
カナダ	231,903	818,030	283.5	208,017	727,382	286	178,713	455,930	392
日本	8,969	23,859	375.9	7,605	26,497	287	10,646	26,441	402.6
合計	**328,343**	**1,057,205**	**310.6**	**239,909**	**812,664**	**295.2**	**475,285**	**1,921,717**	**247.3**

（出所）税関総署

※上記CIF（Cost Insurance and Freight=運賃保険料込み条件）価格

2017-2021年　輸入額推移

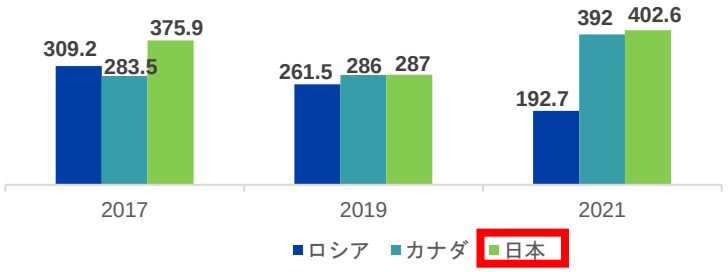
単位：千米ドル



（出所）税関総署

2017-2021年　平均価格推移

単位：米ドル/トン



（出所）税関総署

19 他の針葉樹（ヒノキ含む）（≥6mm）製材
中国における主要用途（HSコード：440712）

- **主要用途**: 中国における他の針葉樹製材は、主にヒノキ板材、家具、内装に使用されている。（業界関係者へのヒアリング）

ヒノキ板材

家具

内装

（出所）ヒアリング対象先企業提供

20 針葉樹（<6mm）単板輸入
国・地域別輸入額シェアおよび平均輸入価格（HSコード：440810）

- **輸入額/輸入量**：2021年の中国の単板（針葉樹、厚さ＜6mm）の輸入額および輸入量は、それぞれ3,832万6,000米ドル、19万トン。輸入規模は小さい。
- **平均価格**：2021年の単板（針葉樹）価格は122.83米ドル/トン（ベトナム）から、2万176.47米ドル/トン（米国）と幅がある。平均輸入価格は201.5米ドル/トン。ベトナム産ベニヤの価格は他の地域より大幅に低い。
- **主要用途**：窓枠、内装材料、人造ボードなどに使用。（業界関係者へのヒアリング）
- **主要輸入国**：中国の輸入単板（針葉樹）の主要供給国はロシアで、輸入総額の約50.89%を占めている。以下、ベトナム、カナダ、台湾、米国、インドネシアの順。

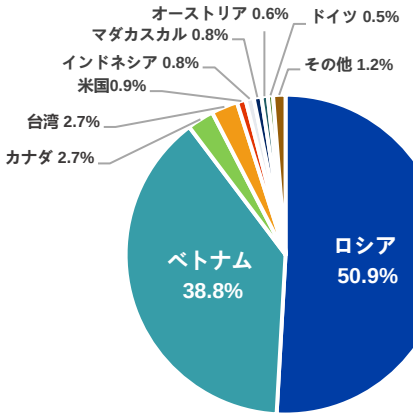
2021年　輸入データ

HS Code: 440810
単板～針葉樹のもの（厚度＜6mm）

国・地域	輸入額 (千米ドル)	輸入量 （トン）	平均価格 (米ドル/トン)
ロシア	19,505	66,240	294.5
ベトナム	14,878	121,124	122.8
カナダ	1,036	76	13,631.6
台湾	1,023	176	5,812.5
米国	343	17	20,176.5
インドネシア	314	50	6,280
マダガスカル	299	2,304	129.8
オーストリア	246	32	7,687.5
ドイツ	203	19	10,684.2
日本	38	13	2,923.1
その他	479	162	2,956.8
合計/平均	**38,326**	**190,200**	**201.5**

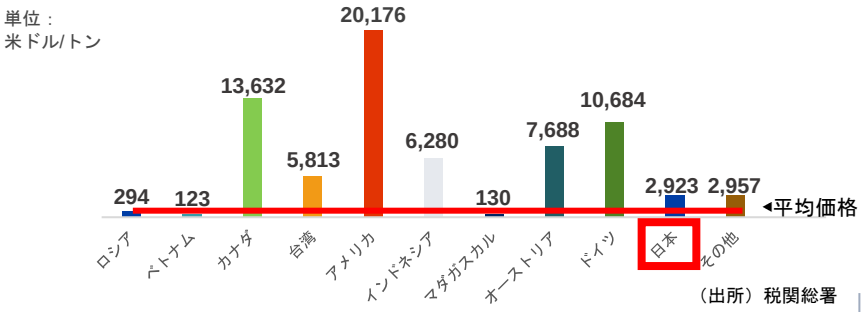
（出所）税関総署　※上記CIF （Cost Insurance and Freight=運賃保険料込み条件）価格

2021年　国・地域別輸入額シェア



（出所）税関総署

2021年　国・地域別平均輸入価格



（出所）税関総署

21 針葉樹（<6mm）単板輸入
主要輸入元国・地域別輸入額および平均価格推移（HSコード：440810）

- **主要輸入国**：ここ数年、中国の単板（針葉樹、厚さ＜6mm）の輸入額および輸入量は急増している。2021年の輸入総額は2019年比で99.1%増加、輸入量は145.7%増を記録している。主な供給国であるロシアとベトナムのここ数年の輸入額および輸入量はいずれも増加傾向にある。丸太や製材と比べて、2017～2021年の日本産単板（針葉樹）輸入は極めて少なく、2019年はゼロであった。
- **平均価格**：ここ数年の輸入単板（針葉樹）の市場平均価格は全体的に下落傾向にあり、2021年の平均価格は2019年比で19%下落している。ただし、一部の輸入元国では単板の供給価格が上昇しており、なかでもロシアの2021年の平均価格は2019年比で50.4%も上昇している。

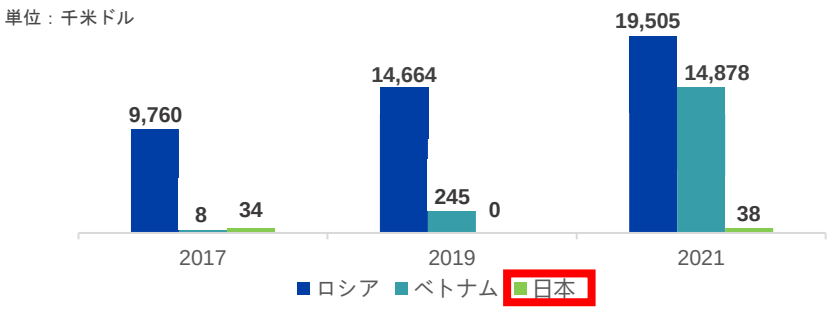
主要輸入元国・地域別データ
HS Code: 440810　単板～針葉樹のもの・厚さ＜6mm

年	2017			2019			2021		
国・地域	輸入額 (千米ドル)	輸入量 （トン）	平均価格 (米ドル/トン)	輸入額 (千米ドル)	輸入量 （トン）	平均価格 (米ドル/トン)	輸入額 (千米ドル)	輸入量 （トン）	平均価格 (米ドル/トン)
ロシア	9,760	53,473	182.5	14,664	74,873	195.9	19,505	66,240	294.5
ベトナム	8	77	103.9	245	1,636	149.8	14,878	121,125	122.8
日本	34	17	2,000	0	0	0	38	13	2,923.1
合計	**13,654**	**54,247**	**251.7**	**19,250**	**77,411**	**248.7**	**38,326**	**190,200**	**201.5**

（出所）税関総署

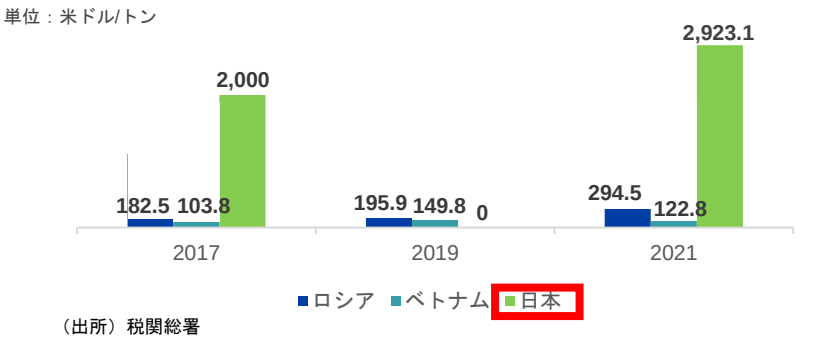
※上記CIF （Cost Insurance and Freight=運賃保険料込み条件）価格

2017-2021年　輸入額推移



（出所）税関総署

2017-2021年　平均価格推移



（出所）税関総署

本レポートに関する問い合わせ先：

日中経済協会北京事務所農林水産・食品室
（中国輸出支援プラットフォーム北京事務局）
電話番号：86-10-6505-5515
E-mail アドレス：food@postbj.net

【免責条項】

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用下さい。本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。

【関連情報】

本レポートは、2022年度JETRO「中国における木材市場関連調査」のうち税関情報部分はそのまま収録とし、それ以外の部分について23年度最新情報を取り入れて再構成したものです。